

# 後発医薬品の使用促進策の影響 及び実施状況調査報告書(案) ＜概要＞

# 調査の概要①

## 1 調査の目的

- 平成30年度診療報酬改定で実施された後発医薬品の使用促進策により、保険薬局における一般名処方の記載された処方箋の受付状況、後発医薬品の調剤状況や備蓄状況、保険医療機関における一般名処方の実施状況、後発医薬品の使用状況や医師の処方がどのように変化したかを調査するとともに、医師、薬剤師及び患者の後発医薬品に対する意識について調査を行い、改定の結果検証を行うことを目的とする。

## 2 調査の対象及び調査方法

### (1) 施設調査

全国の施設の中から無作為に抽出した保険薬局1,500施設、診療所1,500施設、病院1,000施設に対し、令和元年7月に調査票を配布。

### (2) 医師調査

調査対象となった病院で外来診療を担当する、診療科の異なる2名の医師を調査対象とし、病院を通じて調査票を配布。

### (3) 患者調査

#### ① 郵送調査

調査対象となった保険薬局において、調査期間中に来局した患者(1施設につき最大2名)を調査対象とし、令和元年7月に対象施設を通じて調査票を配布し、患者から郵送により直接回収。

#### ② インターネット調査

直近1か月間に、保険薬局に処方せんを持って来局した患者1,000人程度を調査対象とし、インターネットを用いた調査を実施。

## 調査の概要②

### 3 回収の状況

- 保険薬局調査の有効回答数は721件、有効回答率は48.1%であった。
- 診療所調査の有効回答数(施設数)は766件、有効回答率は51.1%であった。
- 病院調査の有効回答数(施設数)は306件、有効回答率は30.6%であった。また、医師調査の有効回答数は455人であった。
- 患者調査の有効回答数は、郵送調査は951人、WEB調査が1,000人であった。

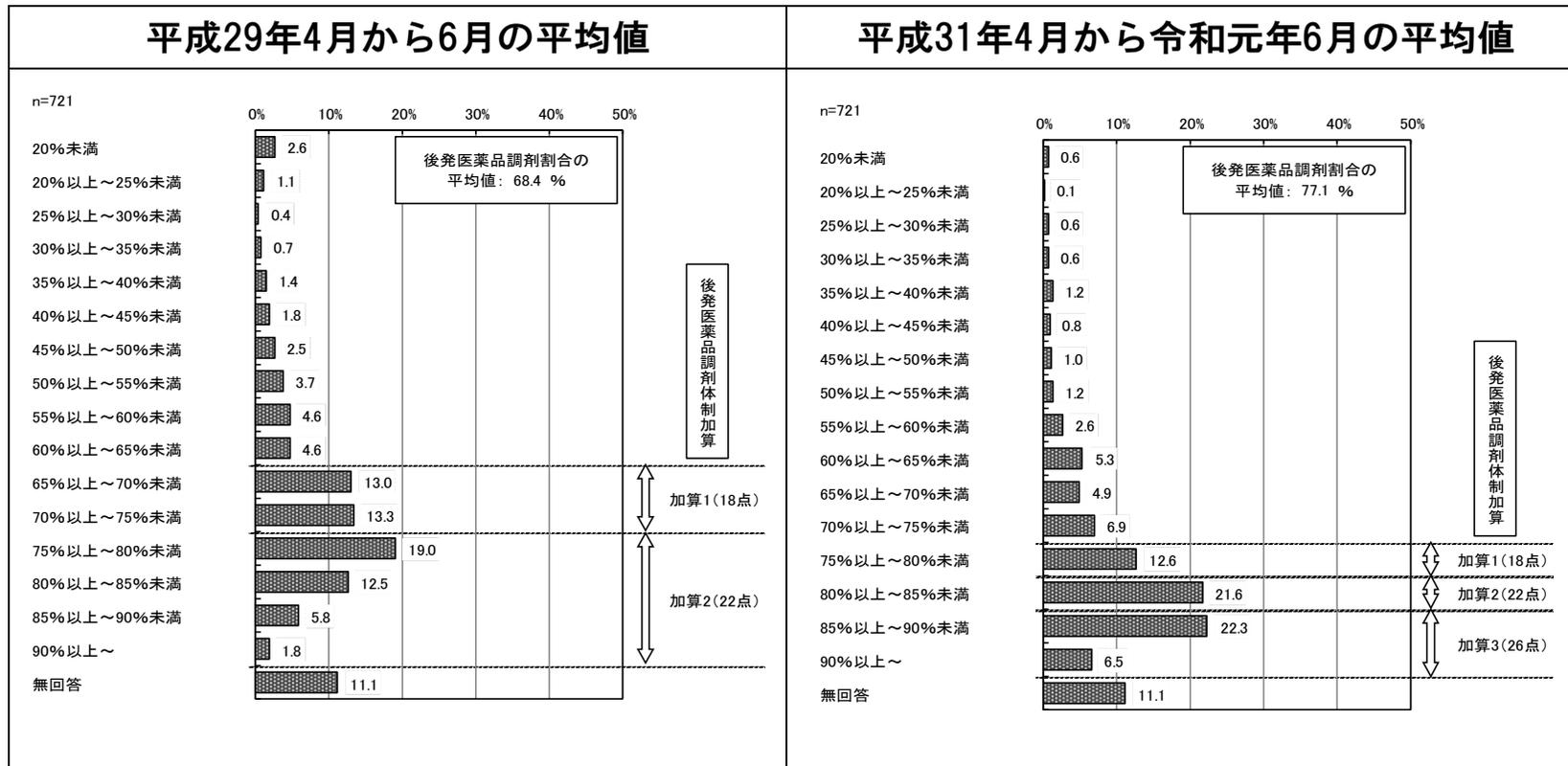
調査対象	施設数	有効回答数	有効回答率
保険薬局	1,500	721(施設)	48.1%
診療所	1,500	766(施設)	51.1%
病院	1,000	306(施設)	30.6%
医師	—	455(人)	—
患者(郵送調査)	—	951(人)	—
患者(WEB調査)	—	1,000(人)	—

# 施設調査(保険薬局)の結果①

＜後発医薬品調剤割合＞(報告書p25)

- 薬局における後発医薬品の調剤割合は68.4%から77.1%に8.7ポイント増加した。
- 現在の加算対象の下限である調剤割合75%以上の薬局の割合は39.1%から63.0%に増加した。
- 平成31年4月～令和元年6月では「85%以上～90%未満」が22.3%で最も多く、次いで「80%以上～85%未満」(21.6%)、「75%以上～80%未満」(12.6%)であった。

図表 25 (参考)後発医薬品調剤割合と後発医薬品調剤体制加算の算定基準との関係



# 施設調査(保険薬局)の結果②

＜取り扱い処方箋の状況＞(報告書p29)

- 一般名で処方された医薬品の品目数の割合は、43.3%(平成30年度調査)から51.5%(令和元年度調査)に8.2ポイント増加した。
- 先発医薬品(準先発品)名、後発医薬品名で処方された医薬品であり、かつ変更不可となっている医薬品の品目数の割合はそれぞれ、6.3%、0.9%であった。

図表 32 1週間の取り扱い処方箋に記載された医薬品の品目数と対応状況別品目数(抜粋)  
(504施設、合計389,343品目数)

	今回調査		(参考) 前回調査
	品目数	割合	
①一般名で処方された医薬品の品目数	200,433	51.5%	43.3%
④先発医薬品(準先発品)名で処方された医薬品の品目数	135,821	34.9%	41.7%
⑤'「変更不可」となっている医薬品の品目数	24,547	6.3%	6.1%
⑤「変更不可」となっていない医薬品の品目数	111,274	28.6%	35.6%
⑪後発医薬品名で処方された医薬品の品目数	37,038	9.5%	10.9%
⑫「変更不可」となっている医薬品の品目数	3,476	0.9%	0.6%
⑫'「変更不可」となっていない医薬品の品目数	33,562	8.6%	10.3%
⑬その他の品目名で処方された医薬品の品目数	16,051	4.1%	4.1%
⑭処方箋に記載された医薬品の品目数の合計	389,343	100.0%	100.0%

(注)

- ・令和元年6月21日(金)～6月27日(木)に取り扱った処方箋枚数及び品目数内訳について回答があった施設を集計対象とした。
- ・前回調査分は平成30年9月7日(金)～9月13日(木)を調査期間とし、556施設、総処方箋164,020枚に記載された377,034品目数の内訳
- ・⑤'は、④(先発医薬品(準先発品)名で処方された医薬品の品目数)から⑫(「変更不可」となっていない医薬品の品目数)を控除して算出した。
- ・⑫'は、⑪(後発医薬品名で処方された医薬品の品目数)から⑫(「変更不可」となっている医薬品の品目数)を控除して算出した。

# 施設調査(保険薬局)の結果③

## ＜医薬品の備蓄状況等＞（報告書p44）

- 3か月間の医薬品全品目の合計廃棄額の平均についてみると、平成29年度は78,767円、令和元年度は81,736円で、3.8%の増加率であった。
- 3か月間の後発医薬品の合計廃棄額の平均についてみると、平成29年度は17,227円、令和元年度は16,179円で、-6.1%の減少率であった。

図表 53 医薬品の在庫金額、購入金額及び廃棄金額 (n=268)

(単位:円)

			在庫金額:令和元年6月末 購入金額、廃棄金額: 平成31年4月～令和元年6月 合計	在庫金額:平成29年6月末 購入金額、廃棄金額:平成 29年4～6月合計	増加率
① 在庫金額	医薬品全品目	平均値	10,482,268	10,375,101	1.0%
		標準偏差	14,051,487	12,558,382	
		中央値	7,015,000	7,000,000	
	うち、後発医薬品	平均値	2,635,895	2,124,882	24.0%
		標準偏差	7,386,325	4,387,334	
		中央値	1,500,000	1,244,481	
② 購入金額	医薬品全品目	平均値	25,905,319	25,559,581	1.4%
		標準偏差	43,687,844	38,299,227	
		中央値	14,256,028	15,449,841	
	うち、後発医薬品	平均値	5,579,282	4,802,993	16.2%
		標準偏差	11,177,594	7,824,454	
		中央値	3,195,000	2,862,000	
③ 廃棄金額	医薬品全品目	平均値	81,736	78,767	3.8%
		標準偏差	169,421	148,486	
		中央値	32,500	33,820	
	うち、後発医薬品	平均値	16,179	17,227	-6.1%
		標準偏差	41,020	60,741	
		中央値	3,932	4,000	

(注1)「全体」について医薬品の備蓄品目数(バイオ後続品含む)、在庫金額、購入金額、廃棄額の全ての項目について回答のあった施設を集計対象とした。

(注2)薬価改定の影響は考慮していない

# 施設調査(保険薬局)の結果④

＜医薬品の備蓄品目数＞(報告書p40,41)

後発医薬品の備蓄品目数は平均363.2品目(平成30年度調査)から平均399.9品目(令和元年度調査)に増加した。

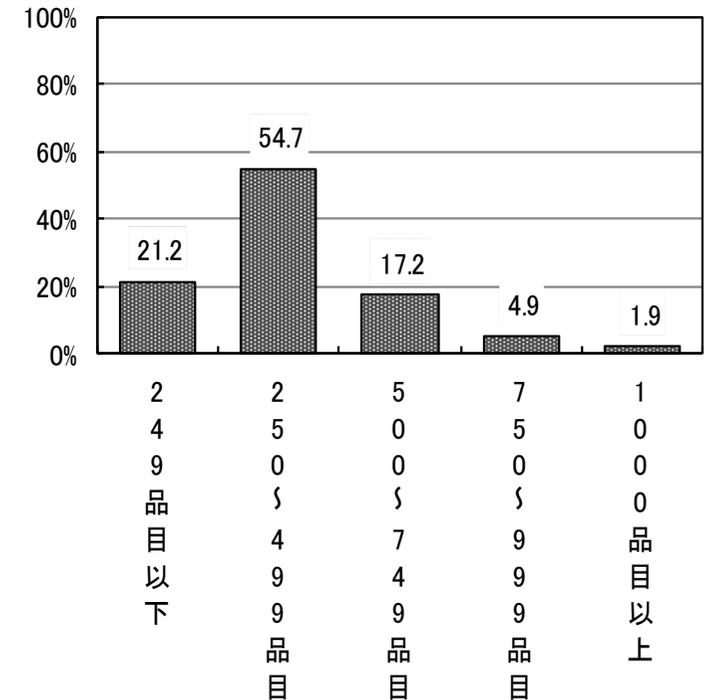
図表 45 医薬品の備蓄品目数(令和元年6月)(n=268)

(単位:品目)

	①全医薬品			②うち後発医薬品			平均値 ②÷①
	平均	標準偏差	中央値	平均	標準偏差	中央値	
内服薬	896.3	406.5	926.5	335.4	179.8	305.5	37.4%
外用薬	232.0	120.8	230.0	63.6	46.3	55.0	27.4%
注射薬	11.6	14.2	10.0	1.0	2.8	1.0	8.4%
合計	1139.9	509.7	1200.0	399.9	211.3	369.0	35.1%

(注) 医薬品の備蓄品目数(バイオ後続品含む)、在庫金額、購入金額、廃棄額の全ての項目について回答のあった施設を集計対象とした。

図表 46 後発医薬品の備蓄品目数の分布(n=225)



(参考)平成30年度調査(抜粋)

医薬品の備蓄品目数(平成30年10月)(n=232)

(単位:品目)

	①全医薬品			②うち後発医薬品			平均値 ②÷①
	平均	標準偏差	中央値	平均	標準偏差	中央値	
内服薬	893.3	388.3	941.5	304.7	149.8	292.5	34.1%
外用薬	219.6	117.1	218.0	57.0	37.2	50.5	25.9%
注射薬	14.1	29.9	10.0	1.5	6.0	1.0	10.7%
合計	1127.0	484.2	1209.5	363.2	176.8	345.5	32.2%

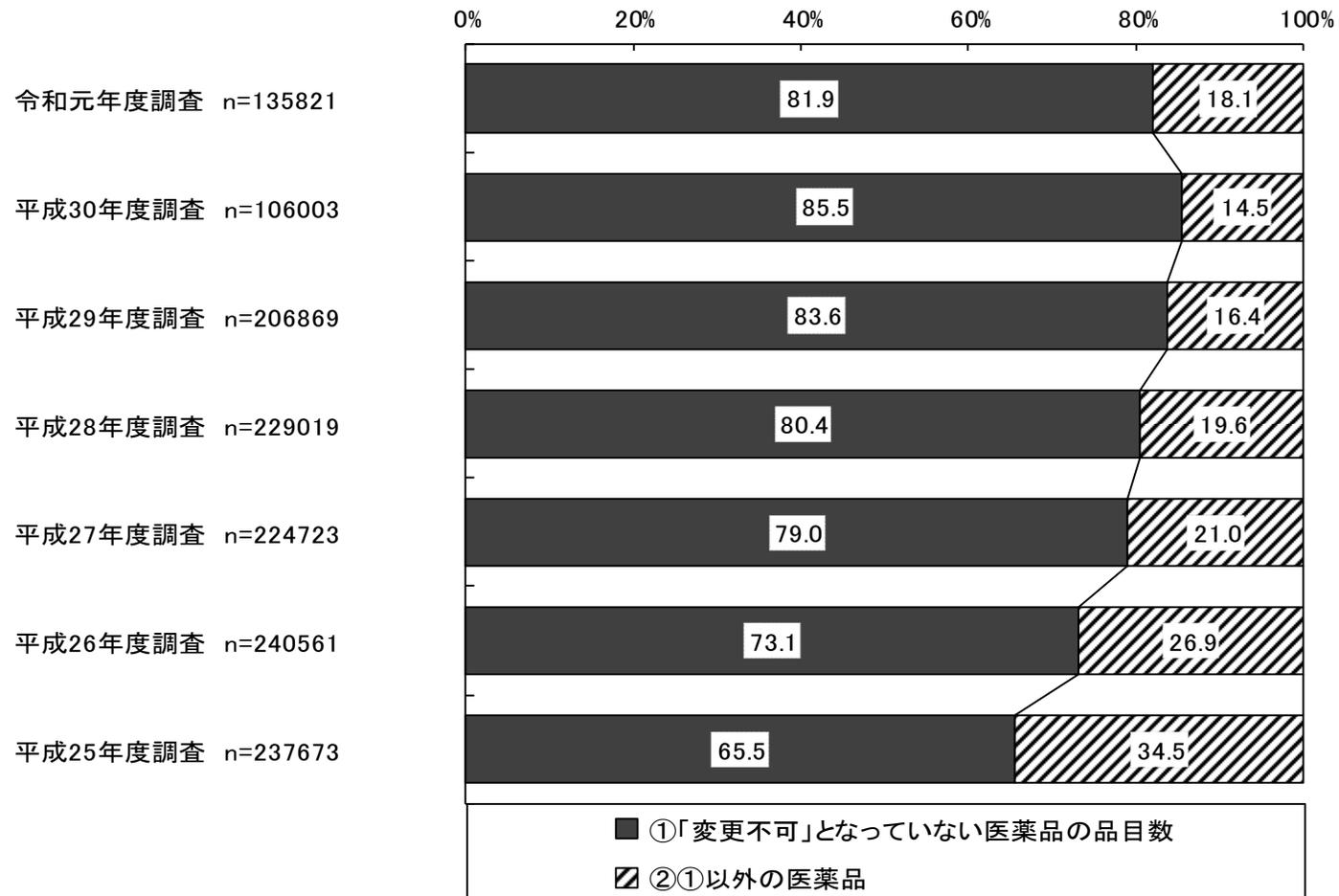
(注) 医薬品の備蓄品目数、在庫金額、購入金額、廃棄額の全ての項目について回答のあった施設を集計対象とした。

# 施設調査(保険薬局)の結果⑤

＜先発医薬品(準先発品)名で処方された医薬品における「変更不可」の状況＞(報告書p32)

先発医薬品(準先発品)名で処方された医薬品のうち、「変更不可」となっている割合は18.1%であった(昨年度14.5%)。

図表 35 先発医薬品(準先発品)名で処方された医薬品における「変更不可」の状況

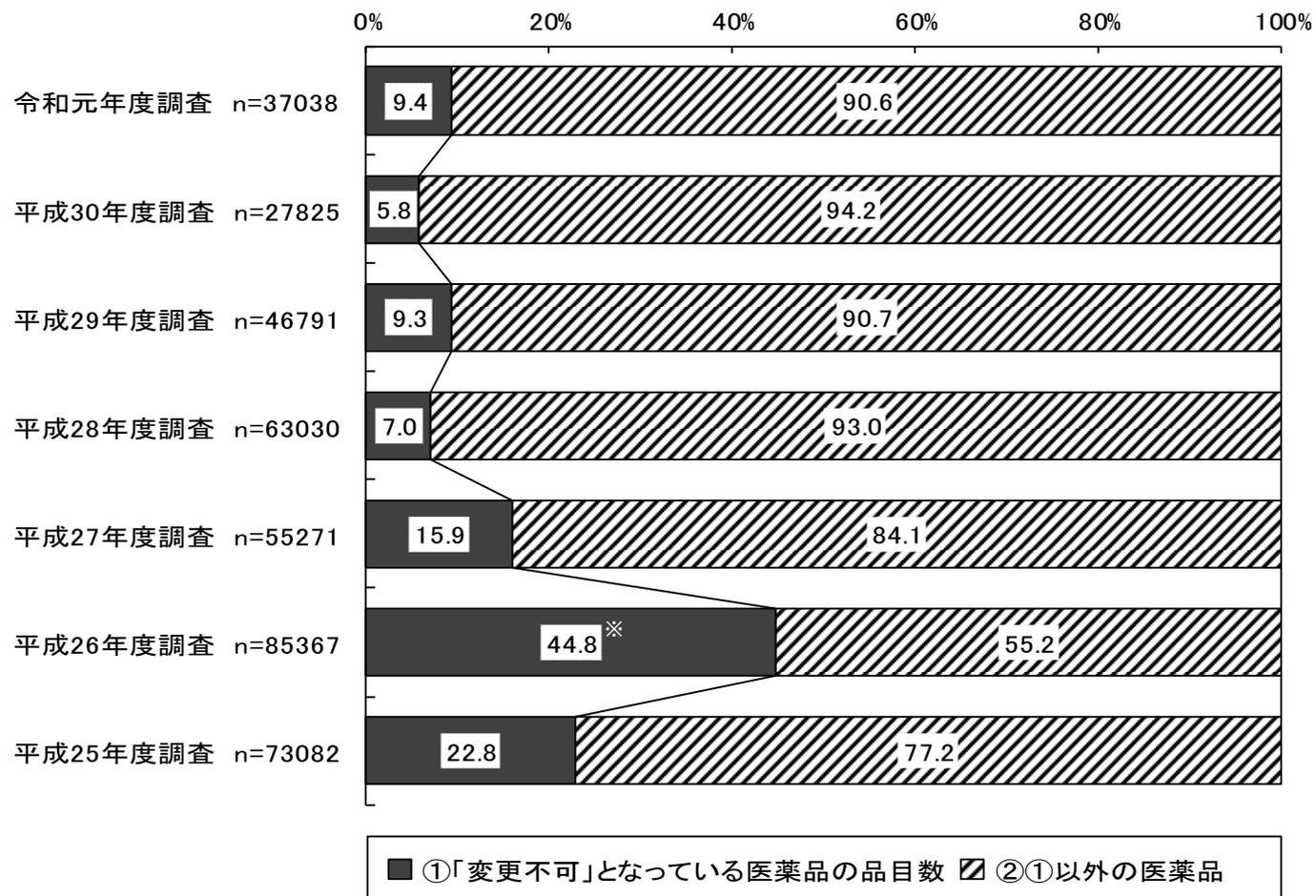


# 施設調査(保険薬局)の結果⑥

＜後発医薬品名で処方された医薬品における「変更不可」の状況＞（報告書p36）

後発医薬品名で処方された医薬品のうち、「変更不可」となっている割合は9.4%であった（昨年度5.8%）。

図表 40 後発医薬品名で処方された医薬品における「変更不可」の状況



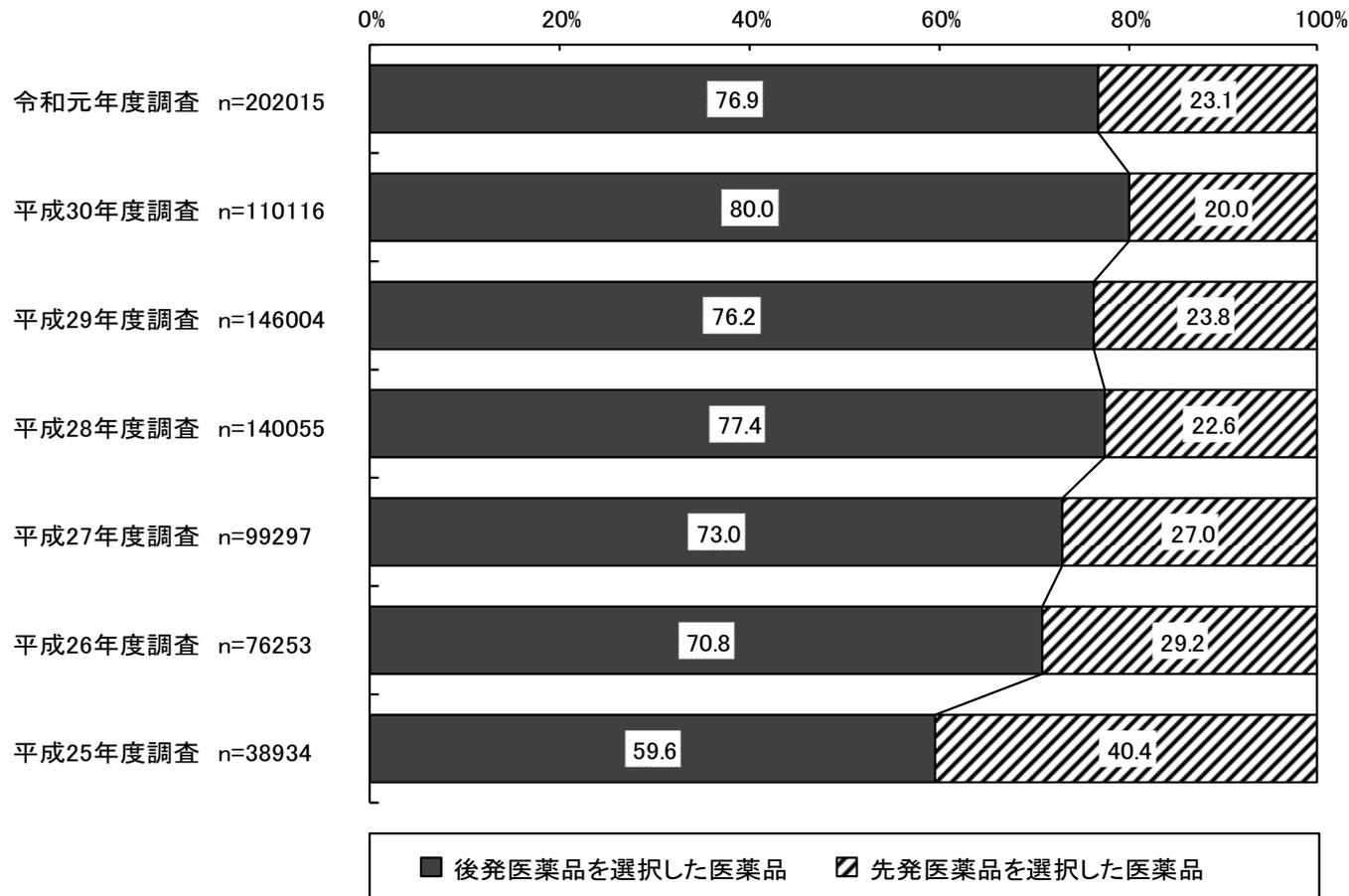
(※)平成26年度調査については、「変更不可」の割合が90%を超える薬局が36施設あったこと等により、銘柄指定の割合が多くなったもの。

# 施設調査(保険薬局)の結果⑦

＜一般名で処方された医薬品における後発医薬品を選択した割合＞(報告書p31)

一般名で処方された医薬品のうち、薬局で後発医薬品を調剤した割合は76.9%であった。  
(昨年度80.0%)

図表 34 一般名で処方された医薬品における、後発医薬品の調剤状況



(注)「先発医薬品」には、準先発品も含まれる。

# 施設調査(保険薬局)の結果⑧

＜医薬品の備蓄品目数＞（報告書p41,42,43）

- 45.7%の薬局でバイオ後続品を備蓄していた。
- バイオ後続品を備蓄する薬局では平均1.3品目を備蓄していた。

図表 47 バイオ後続品の備蓄品目数

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
バイオ後続品の品目数(品目)	460	0.6	1.1	0.0

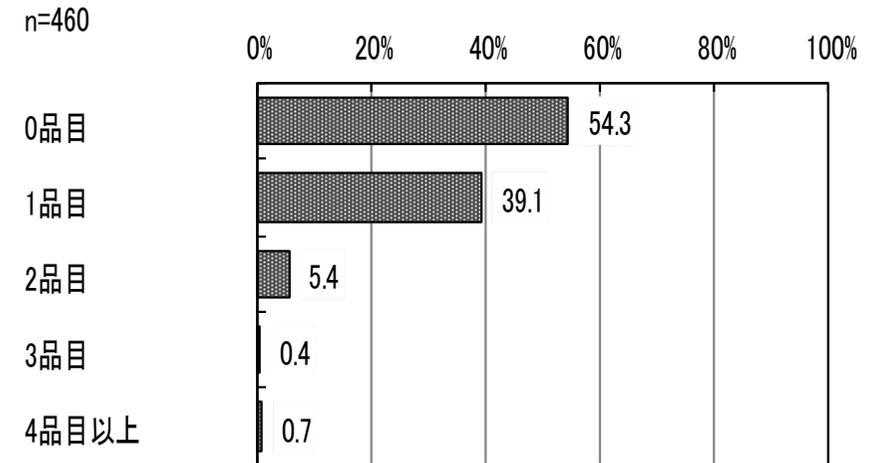
(注)バイオ後続品の備蓄品目数について回答のあった施設を集計対象とした。

(参考)平成30年度調査(n=588)

	平均値	標準偏差	中央値
バイオ後続品の品目数(品目)	0.4	0.6	0.0

(注)バイオ後続品の備蓄品目数について回答のあった施設を集計対象とした。

図表 48 薬局におけるバイオ後続品の備蓄品目数の分布 (n=460)



図表 49 バイオ後続品の備蓄品目数(1品目以上の備蓄がある薬局に限定)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
バイオ後続品の品目数(品目)	210	1.3	1.3	1.0

(注)バイオ後続品の備蓄品目数について1品目以上であると回答のあった施設を集計対象とした。

図表 51 1つの先発医薬品(同一規格)に対する後発医薬品の平均備蓄品目数

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
1つの先発医薬品(同一規格)に対する後発医薬品備蓄品目数	605	1.2	0.4	1.0

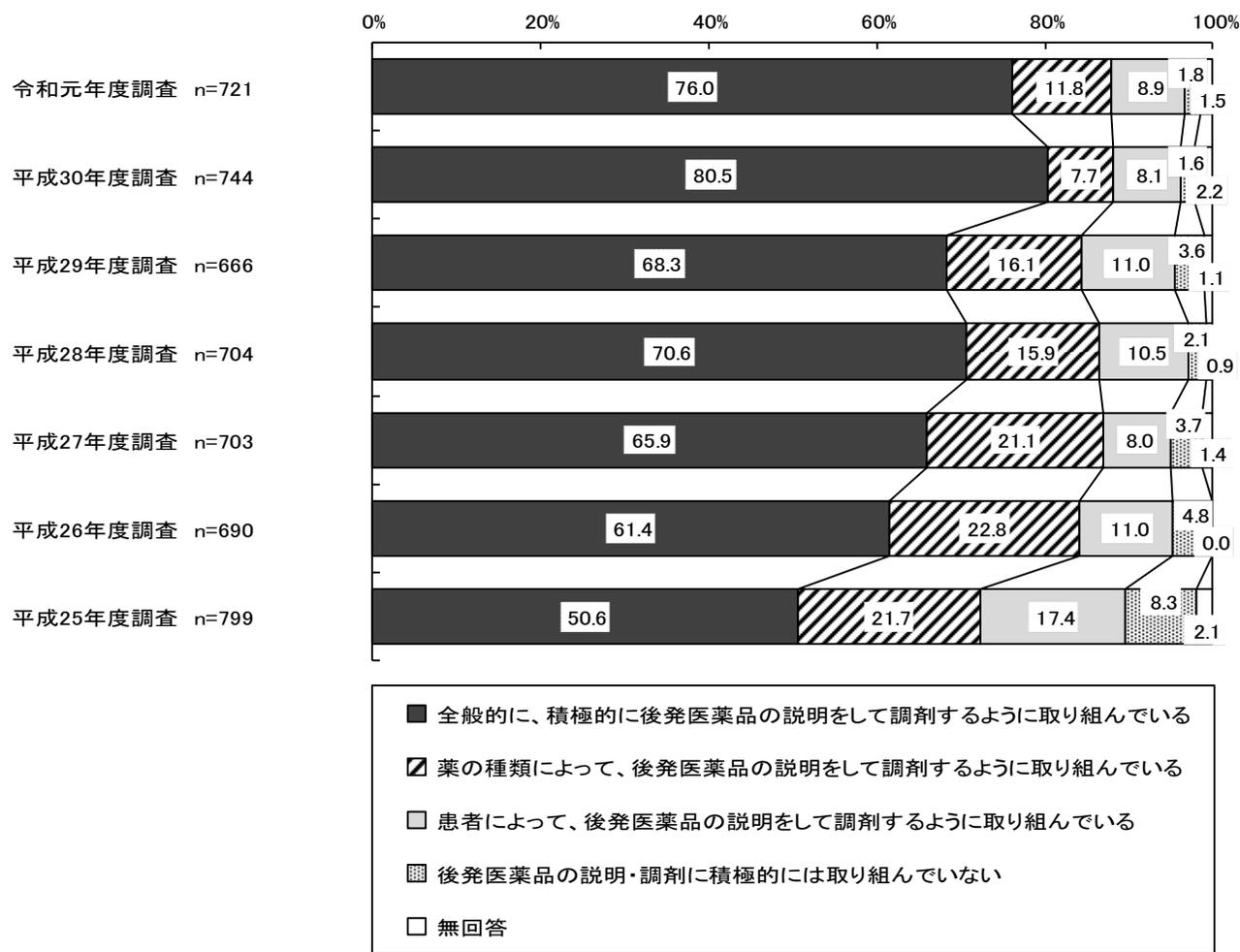
(注)1つの先発医薬品に対する後発医薬品の平均備蓄品目数について回答のあった施設を集計対象とした。

# 施設調査(保険薬局)の結果⑨

＜後発医薬品の調剤に関する考え①＞(報告書p47)

後発医薬品の調剤に関する考えについてみると、「全般的に、積極的に後発医薬品の説明をして調剤するように取り組んでいる」が76.0%で最も多く、次いで「患者によって、後発医薬品の説明をして調剤するように取り組んでいる」が11.8%であった。

図表 57 後発医薬品の調剤に関する考え(単数回答)

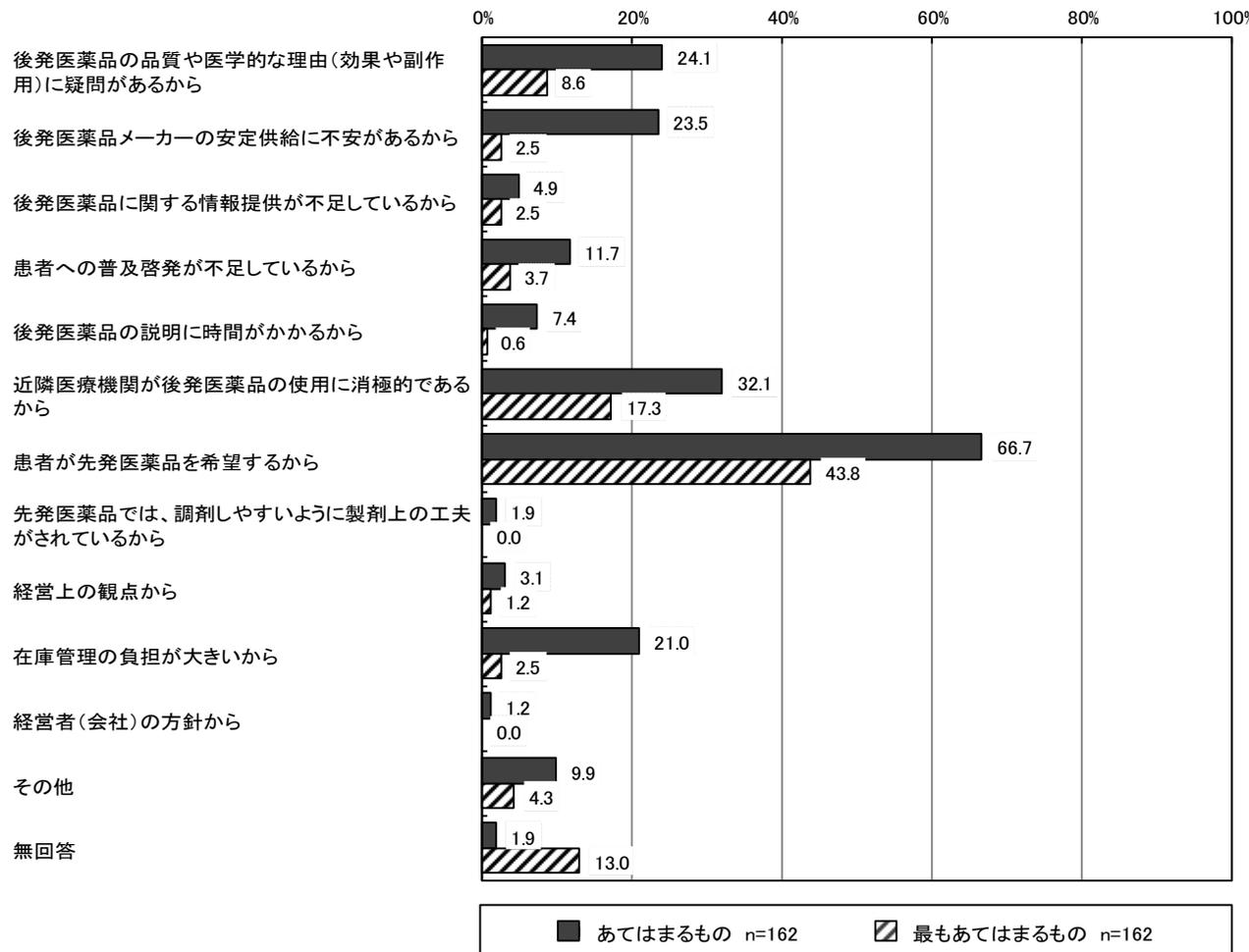


# 施設調査(保険薬局)の結果⑩

<後発医薬品の調剤に関する考え②> (報告書p50)

後発医薬品をあまり積極的には調剤しない場合の理由として、「患者が先発医薬品を希望するから」が66.7%で最も多く、次いで「近隣医療機関が後発医薬品の使用に消極的であるから」(32.1%)、「後発医薬品の品質や医学的な理由(効果や副作用)に疑問があるから」(24.1%)となった。

図表 61 あまり積極的には調剤しない場合の理由  
(「全般的に、積極的に後発医薬品の説明をして調剤するように取り組んでいる」と回答した薬局以外の薬局)



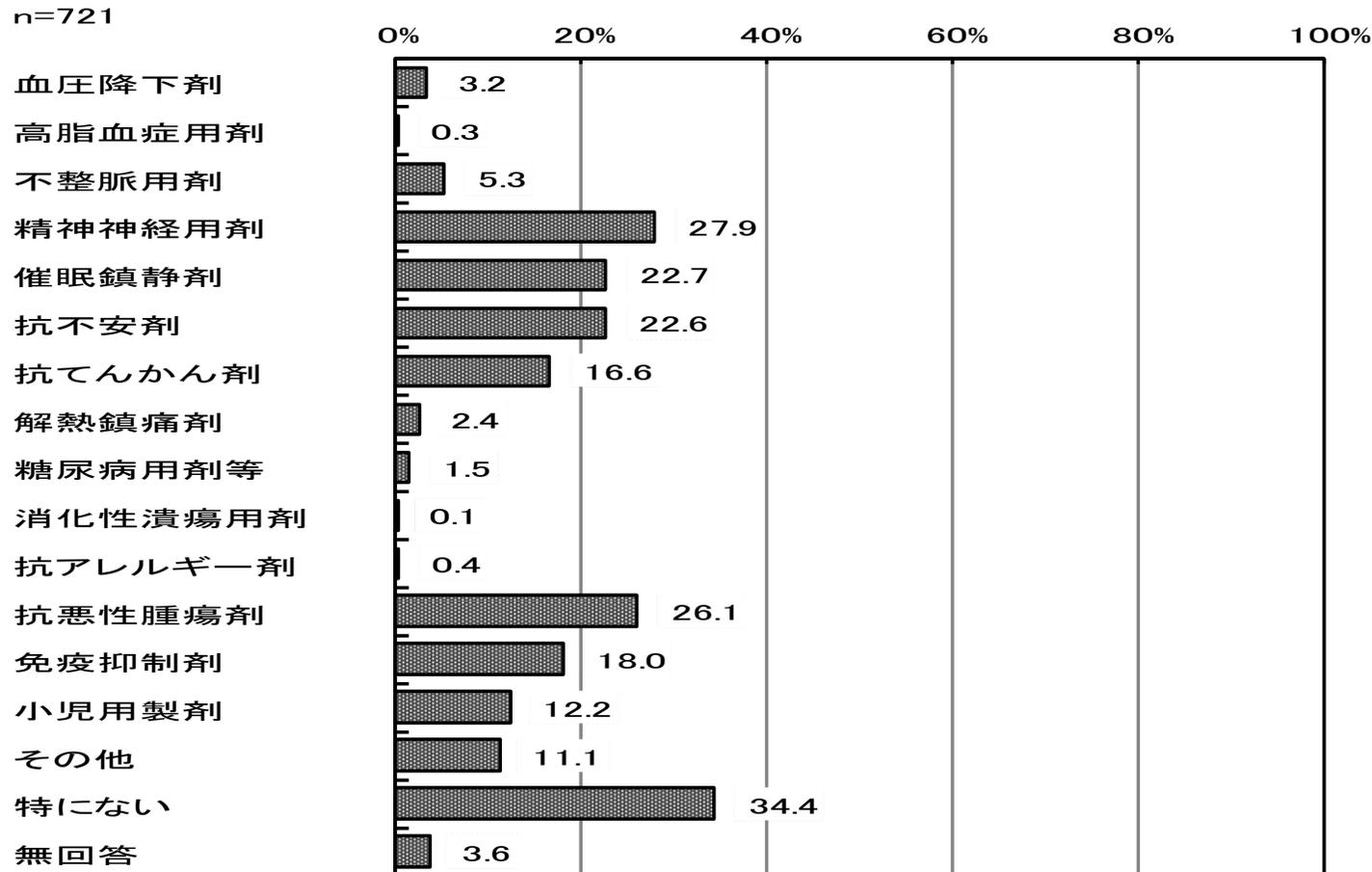
注)「その他」の内容のうち、主なものは以下の通り。  
 ・向精神薬(変更によって効果が効かないということが多い)の場合。  
 ・チューブ型軟膏の剤型が後発品は固くて使いにくい。  
 ・外用薬は使用感が違うため。  
 ・価格差が小さく、負担額に差が出ないため。

# 施設調査(保険薬局)の結果⑪

＜後発医薬品の調剤に関する考え③＞(報告書p54)

後発医薬品を積極的に調剤していない・調剤しにくい医薬品の種類として回答されたもののうち最も多かったのは「精神神経用剤」(27.9%)であり、次いで「抗悪性腫瘍剤」(26.1%)、「催眠鎮静剤」(22.7%)、「抗不安剤」(22.6%)、「免疫抑制剤」(18.0%)、「抗てんかん剤」(16.6%)であった。

図表 65 後発医薬品を積極的にには調剤していない・調剤しにくい医薬品の種類(剤形を除く、複数回答)



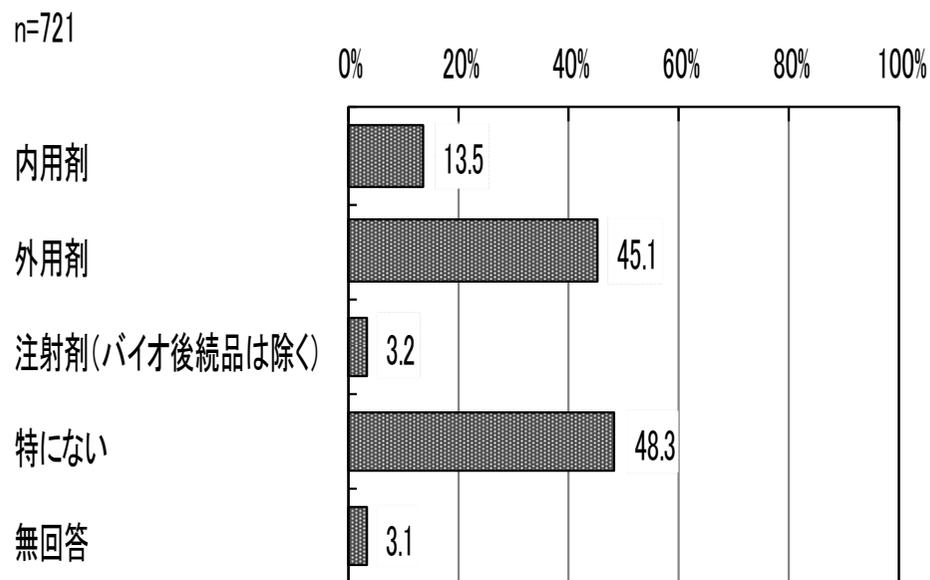
注)「その他」の内容のうち、主なものは以下の通り。  
・感染症の薬・抗生物質、小児用抗生剤、鎮痛剤、骨粗鬆症薬

# 施設調査(保険薬局)の結果⑫

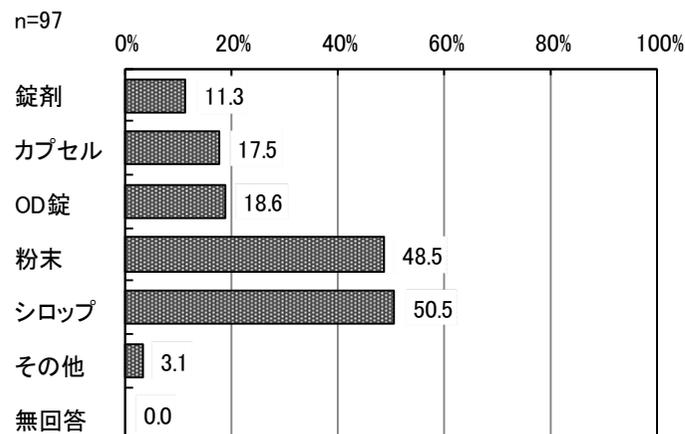
＜後発医薬品を積極的に調剤していない・調剤しにくい医薬品の剤形等＞(報告書p56)

後発医薬品を積極的に調剤していない・調剤しにくい医薬品の剤形を尋ねたところ、最も多かったのは、「外用剤」で45.1%であった。次いで「内用剤」(13.5%)、「注射剤(バイオ後続品は除く)」(3.2%)であった。内用剤では「シロップ」(50.5%)が、外用剤では「貼付薬」(76.3%)が最も多かった。

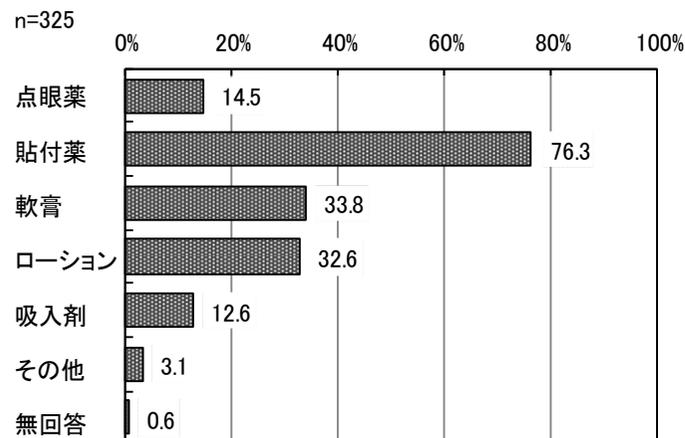
図表67 後発医薬品を積極的に調剤していない・調剤しにくい医薬品の剤形(複数回答)



図表68 内用剤の内訳(複数回答、「内用剤」を回答した施設)



図表69 外用剤の内訳(複数回答、「外用剤」を回答した施設)



(注)「その他」の内容のうち、主なものは以下の通り。  
・点鼻薬、軟膏やクリームの混合

# 施設調査(保険薬局)の結果⑬

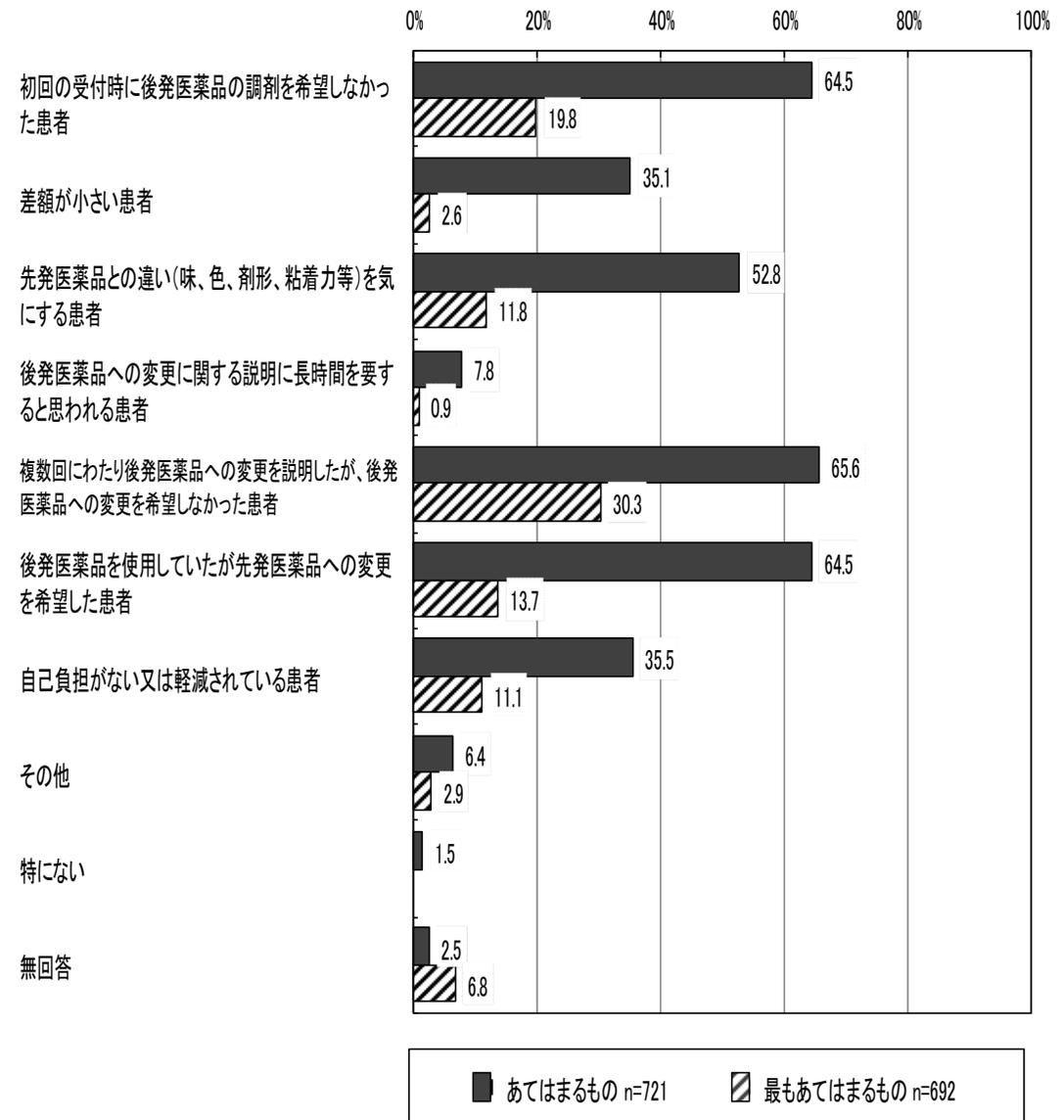
## ＜後発医薬品の調剤に関する考え④＞(報告書p59)

後発医薬品を積極的には調剤していない・調剤しにくい患者の特徴としてあてはまるもの(複数回答)をみると、「複数回にわたり後発医薬品への変更を説明したが、後発医薬品への変更を希望しなかった患者」が65.6%で最も多く、次いで「初回の受付時に後発医薬品の調剤を希望しなかった患者」、「後発医薬品を使用していたが先発医薬品への変更を希望した患者」がいずれも64.5%であった。

注)「その他」の内容のうち、主なものは以下の通り。

- ・後発で調子を悪くした経験のある患者
- ・後発品に切り替えたタイミングで体調不良を起こした患者
- ・副作用が起こりやすい(訴えやすい)方で、特定のものを以外受け付けない患者
- ・アレルギーが多く、現在の薬で症状が安定している患者
- ・後発医薬品を使用し、なんらかの副作用が出たと思込んでいる患者。実際は副作用とは言えない場合も拒否されることが多いため。
- ・理解力の著しく低い患者
- ・精神疾患のある患者
- ・説明が理解できない患者
- ・心身、精神上の問題で、後発医薬品の理解及び意思決定ができない患者
- ・理解力が低い患者、薬局での説明をすぐに忘れる患者
- ・認知機能低下により、名称やデザイン変更が混乱を招きかねない患者
- ・見た目が変わると混乱を生じる高齢者
- ・薬は医師が決めるものであり、薬局に選択してほしいなど、医師に全幅の信頼をしておき、主治医が後発医薬品をよく説明しない場合

図表 71 後発医薬品を積極的には調剤していない・調剤しにくい患者の特徴



# 施設調査(医療機関)の結果①

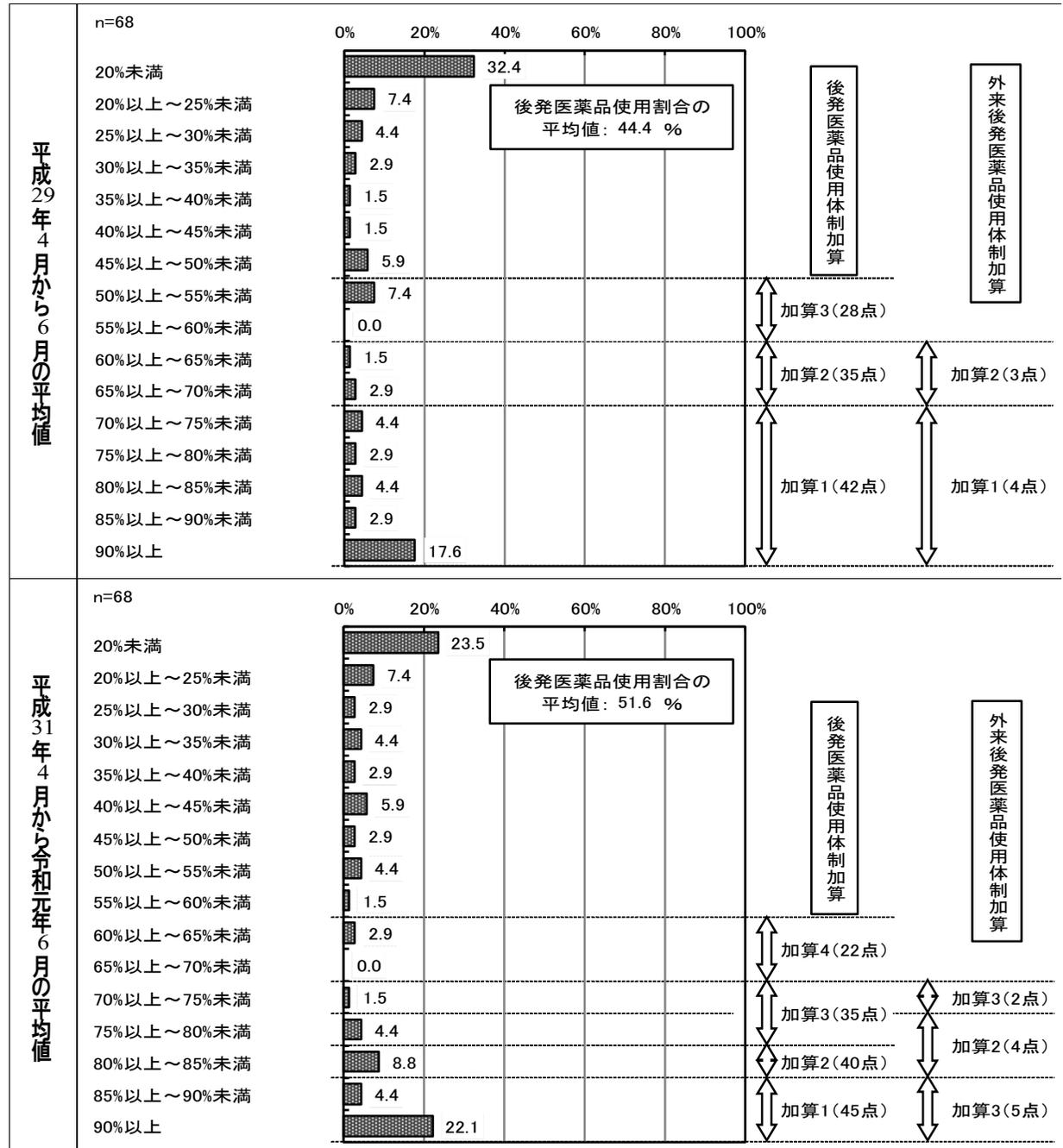
＜後発医薬品使用割合①＞(報告書p121)

診療所

- 診療所(有床診及び院内処方率95%以上の無床診)における後発医薬品の使用割合は44.4%から51.6%に7.2ポイント増加した。
- 現在の後発医薬品使用体制加算の対象の下限である60%以上の診療所の割合は36.6%から44.1%まで7.5ポイント増加した。
- 「90%以上」は4.5ポイント増加した。

図表 154 (参考)後発医薬品使用割合と後発医薬品使用体制加算、外来後発医薬品使用体制加算の算定基準との関係

注)本表は、有床診療所及び無床診療所(院内処方95%以上の場合のみ)に対して、外来、入院の区別なく、後発医薬品の使用割合を尋ねたもの。このため、表中の後発医薬品の使用割合は、後発医薬品使用体制加算、外来後発医薬品使用体制加算との関係性を厳密に示したものとなっていない。



# 施設調査(医療機関)の結果②

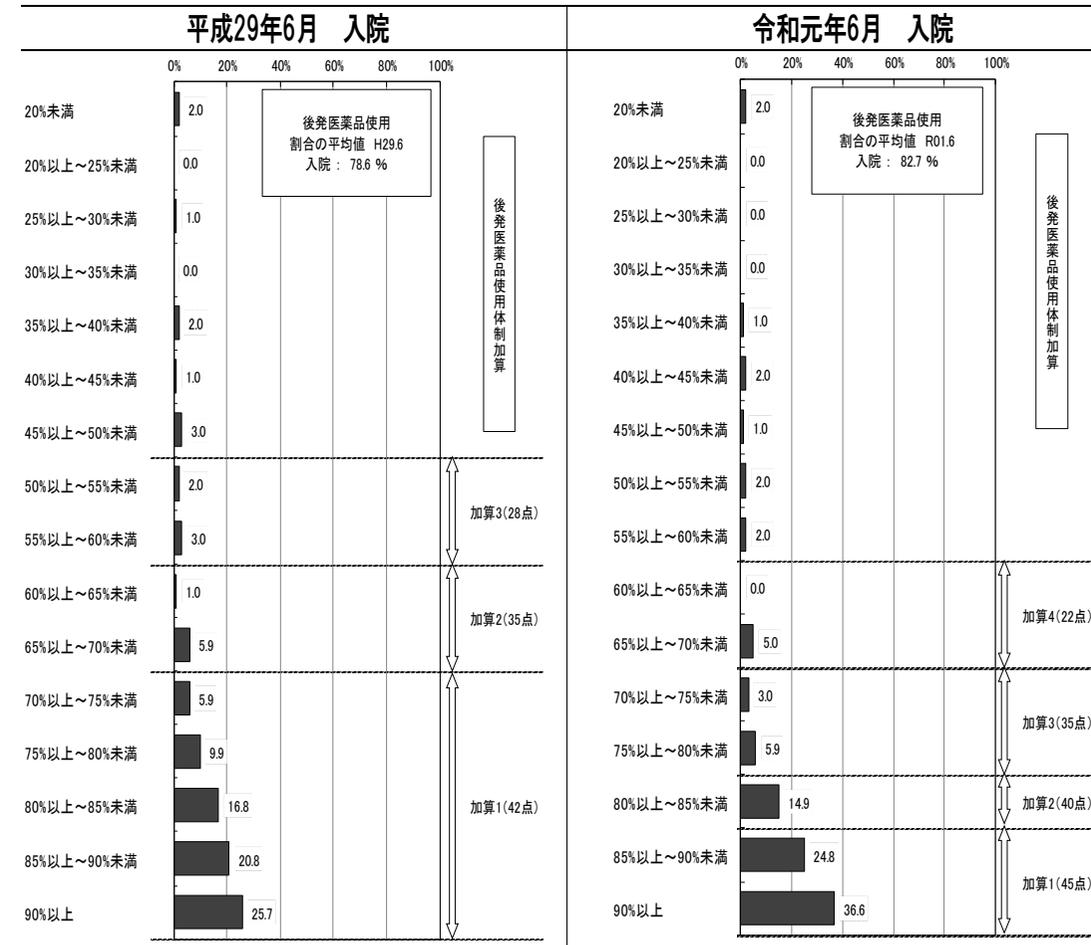
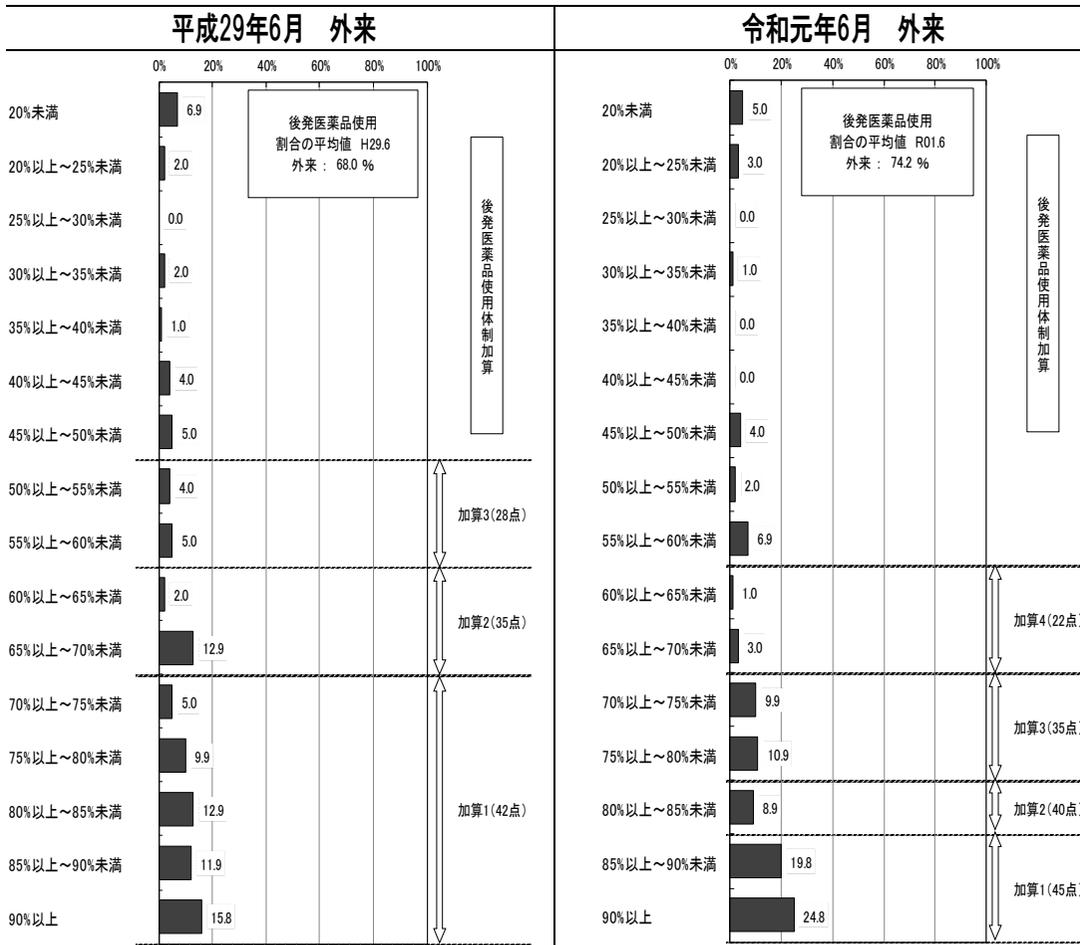
病院

## <後発医薬品使用割合②>(報告書p124)

- 病院における後発医薬品の使用割合は、外来で68.0%から74.2%に6.2ポイント増加、入院で78.6%から82.7%に4.1ポイント増加した。
- 病院において、外来、入院のいずれも、後発医薬品体制加算1、外来後発医薬品使用体制加算1の対象となる使用割合85%以上の病院が増えていた。外来では27.7%→44.6%と約17ポイント増、46.5%→61.4%と14.9ポイント増であった。

図表 159 (参考)後発医薬品使用割合と外来後発医薬品使用体制加算の算定基準との関係

図表 160 (参考)後発医薬品使用割合と後発医薬品使用体制加算の算定基準との関係



# 施設調査(医療機関)の結果③

## <医薬品の備蓄状況等①> (報告書p91~93)

診療所

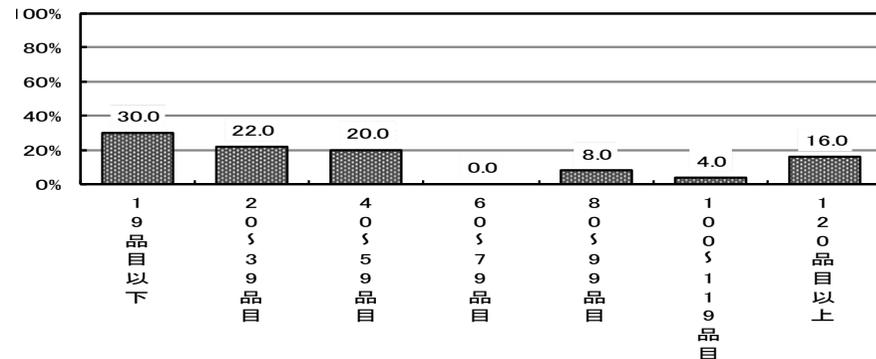
診療所において、後発医薬品の備蓄品目数は平均49.8品目(平成30年度調査)から平均60.2品目(令和元年度調査)に増加した。

図表 123 診療所における医薬品の備蓄状況等(n=50)

	平均値	標準偏差	中央値
1.医薬品備蓄品目数(品目)			
①全医薬品	169.1	127.4	134.5
②①のうち、後発医薬品	60.2	77.1	37.5
③②のうち、バイオ後続品	0.1	0.3	0.0
④後発医薬品割合(②/①)	35.6%		27.9%
2.調剤用医薬品購入額(円)			
①全医薬品	9,418,705.7	15,131,962.1	4,729,722.0
②①のうち、後発医薬品	2,095,624.9	4,665,433.6	921,500.0
③②のうち、バイオ後続品	20,300.0	139,972.9	0.0
④後発医薬品割合(②/①)	22.2%		19.5%
3.調剤用医薬品廃棄額			
①全医薬品	35,518.9	103,637.7	0.0
②①のうち、後発医薬品	8,509.3	41,961.7	0.0
③②のうち、バイオ後続品	0.0	0.0	0.0
④後発医薬品割合(②/①)	24.0%		-

(注)・有床診療所、院外処方が5%未満の無床診療所のうち、医薬品備蓄品目数、調剤用医薬品購入額、調剤用医薬品廃棄額について回答のあった50施設を集計対象とした。  
 ・「医薬品備蓄品目数」は令和元年6月末日の数値が不明の場合は各施設が把握している令和元年度の直近の数値、「調剤用医薬品購入金額」、「調剤用医薬品廃棄額」は平成31年1月~令和元年6月の平均金額とした。

図表 124 診療所における後発医薬品の備蓄品目数の分布



(参考)平成30年度調査

	平均値	標準偏差	中央値
1.医薬品備蓄品目数(品目)			
①全医薬品	164.9	150.4	116.5
②①のうち、後発医薬品	49.8	51.2	31.5
③②のうち、バイオ後続品	0.6	2.7	0.0
④後発医薬品割合(②/①)	30.2%		27.0%
2.調剤用医薬品購入額(円)			
①全医薬品	1,528,265.0	1,923,127.5	823,537.8
②①のうち、後発医薬品	327,369.8	543,668.8	172,841.7
③②のうち、バイオ後続品			
④後発医薬品割合(②/①)	21.4%		21.0%
3.調剤用医薬品廃棄額			
①全医薬品	3,856.9	9,405.0	0.0
②①のうち、後発医薬品	614.7	1,724.8	0.0
③②のうち、バイオ後続品			
④後発医薬品割合(②/①)	15.9%		-

(注)・有床診療所、院外処方が5%未満の無床診療所のうち、医薬品備蓄品目数、調剤用医薬品購入額、調剤用医薬品廃棄額について回答のあった76施設を集計対象とした。  
 ・「医薬品備蓄品目数」は平成30年10月1日の数値が不明の場合は各施設が把握している平成30年度の直近の数値、「調剤用医薬品購入金額」、「調剤用医薬品廃棄額」は平成30年4月~9月の平均額の金額とした。

# 施設調査(医療機関)の結果④

＜医薬品の備蓄状況等②＞(報告書p94,95,97)

病院

病院において、後発医薬品の備蓄品目数は平均225.2品目(平成30年度調査)から平均278.1品目(令和元年度調査)に増加した。

図表 126 病院における医薬品の備蓄品目数(令和元年6月末日、n=107)

		①全医薬品	②うち後発医薬品	②/①
内服薬	平均値	485.2	168.3	34.7%
	標準偏差	240.5	108.3	-
	中央値	437.0	151.0	34.6%
外用薬	平均値	164.1	41.6	25.3%
	標準偏差	97.7	26.8	-
	中央値	143.0	39.0	27.3%
注射薬	平均値	280.5	68.2	24.3%
	標準偏差	199.3	54.4	-
	中央値	220.0	51.0	23.2%
合計	平均値	929.8	278.1	29.9%
	標準偏差	507.2	165.9	-
	中央値	772.0	250.0	32.4%

(注)内服薬、外用薬、注射薬、合計品目について回答のあった107施設を集計対象とした。

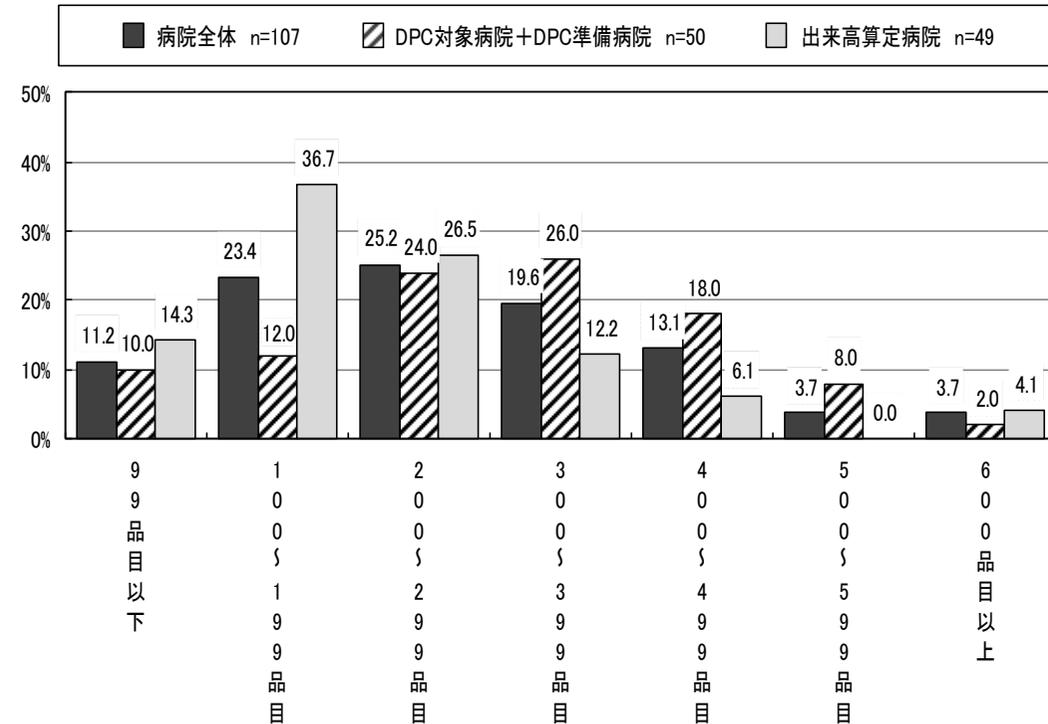
(参考)平成30年度調査

		①全医薬品	②うち後発医薬品	②/①
内服薬	平均値	428.3	134.1	31.3%
	標準偏差	231.7	84.2	36.3%
	中央値	398.5	121.0	30.4%
外用薬	平均値	148.3	37.2	25.1%
	標準偏差	94.3	31.1	33.0%
	中央値	121.5	31.0	25.5%
注射薬	平均値	244.8	53.9	22.0%
	標準偏差	194.1	50.2	25.9%
	中央値	175.5	34.5	19.7%
合計	平均値	821.5	225.2	27.4%
	標準偏差	494.8	146.6	29.6%
	中央値	676.5	194.0	28.7%

(注)・平成30年10月1日時点

・内服薬、外用薬、注射薬、合計品目について回答のあった160施設を集計対象とした。

図表 129 病院における後発医薬品の備蓄品目数の分布(DPC対応状況別、令和元年6月末日)



# 施設調査(医療機関)の結果⑤

## <医薬品の備蓄状況等③> (報告書p97,98)

- 59.8%の病院でバイオ後続品を備蓄していた。
- バイオ後続品を備蓄する病院では平均3.1品目を備蓄していた。

図表 128 病院におけるバイオ後続品の備蓄品目数  
(DPC対応状況別、令和元年6月末日)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
病院全体	107	1.9	2.4	1.0
DPC対象病院+DPC準備病院	50	2.8	2.8	2.0
出来高算定病院	49	1.0	1.7	0.0

(注)内服薬、外用薬、注射薬、合計品目について回答のあった施設を集計対象とした。

(参考)平成30年度調査

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
病院全体	160	1.4	2.4	1
DPC対象病院・DPC準備病院	58	2.9	3.2	2.0
出来高算定病院	95	0.6	1.0	0

(注)・平成30年10月1日時点。

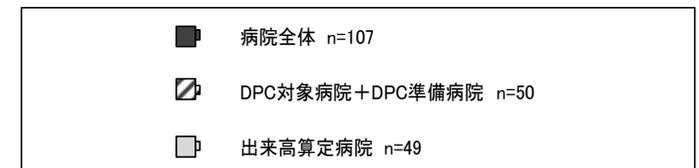
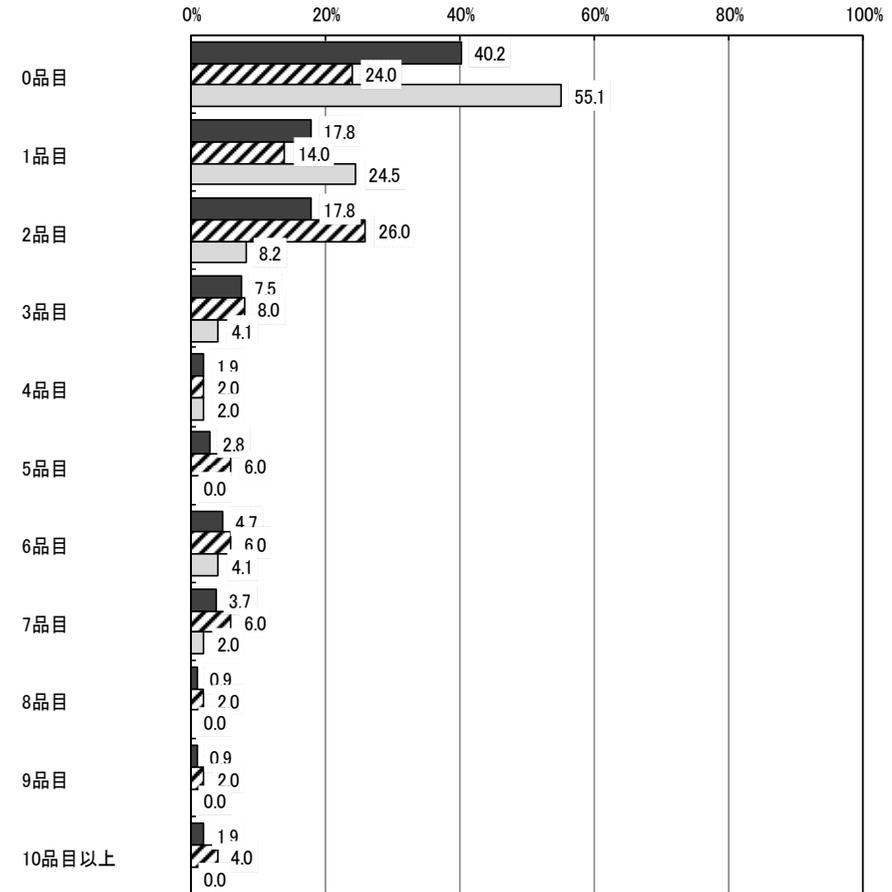
・内服薬、外用薬、注射薬、合計品目について回答のあった160施設を集計対象とした。このうち、DPC対象病院・DPC準備病院は58施設、出来高算定病院が95施設であった。

図表 131 バイオ後続品の備蓄品目数(1品目以上の備蓄がある病院に限定)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
病院全体	64	3.1	2.4	2.0
DPC対象病院+DPC準備病院	38	3.7	2.7	2.0
出来高算定病院	22	2.2	1.8	1.0

(注)バイオ後続品の備蓄品目数について1品目以上であると回答のあった施設を集計対象とした。

図表 130 病院におけるバイオ後続品の備蓄品目数の分布(DPC対応状況別、令和元年6月末日)

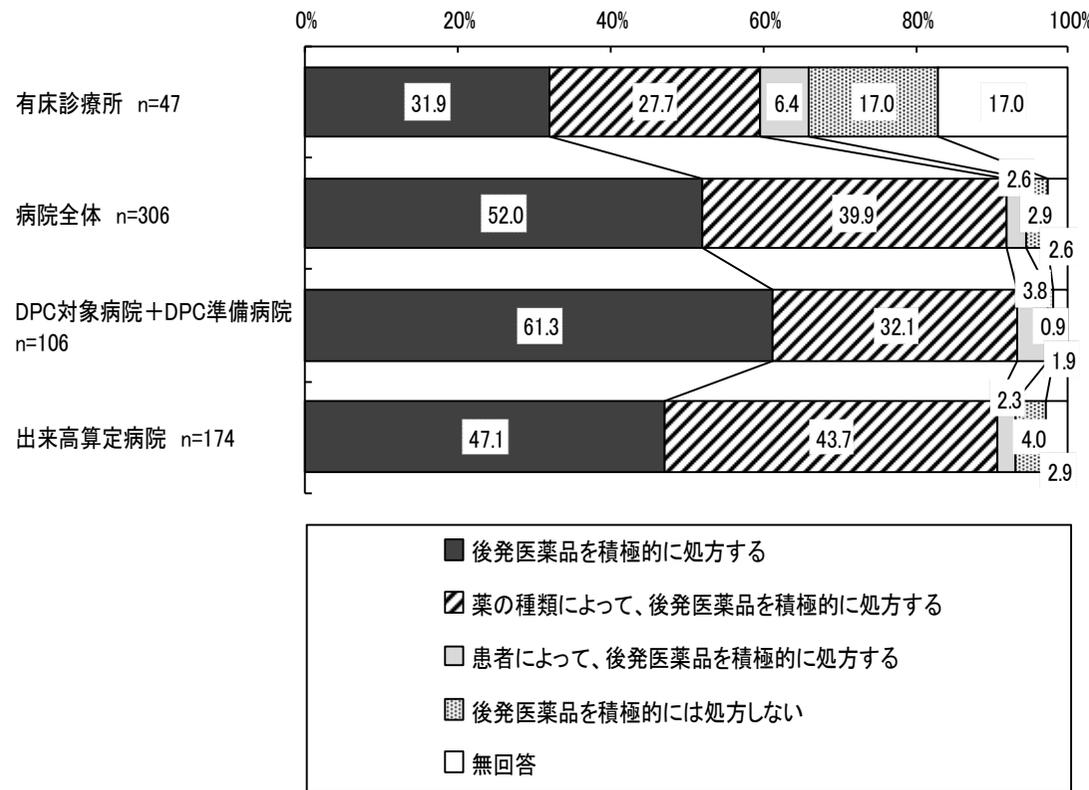


# 施設調査(医療機関)の結果⑥

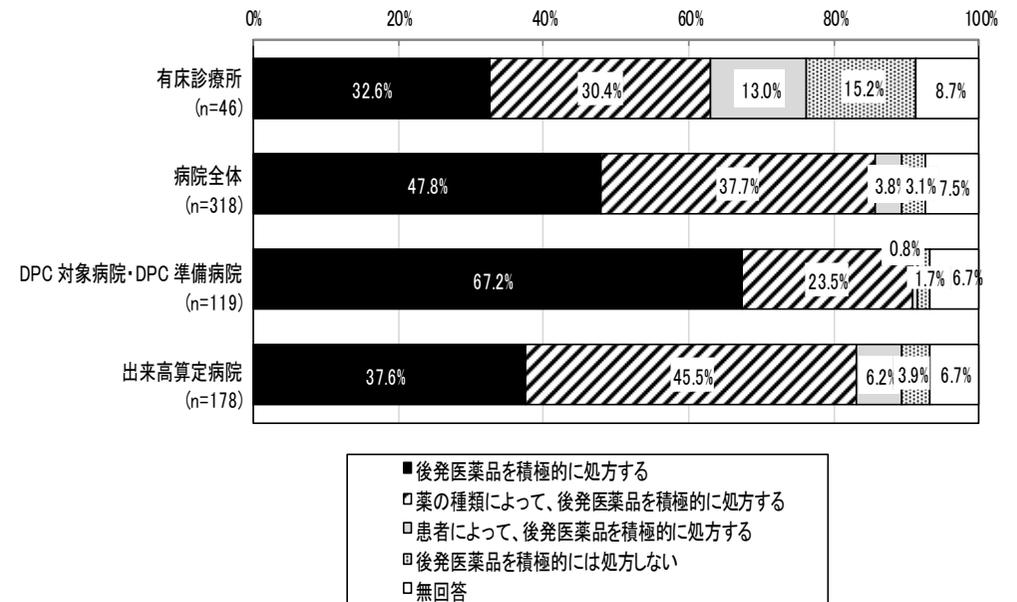
＜入院患者に対する後発医薬品の使用状況＞（報告書p131,132）

入院患者に対する後発医薬品の使用状況についてみると、「後発医薬品を積極的に処方する」は有床診療所で31.9%、病院では52.0%であった。

図表 169 入院患者に対する後発医薬品の使用状況(単数回答)



## (参考)平成30年度調査

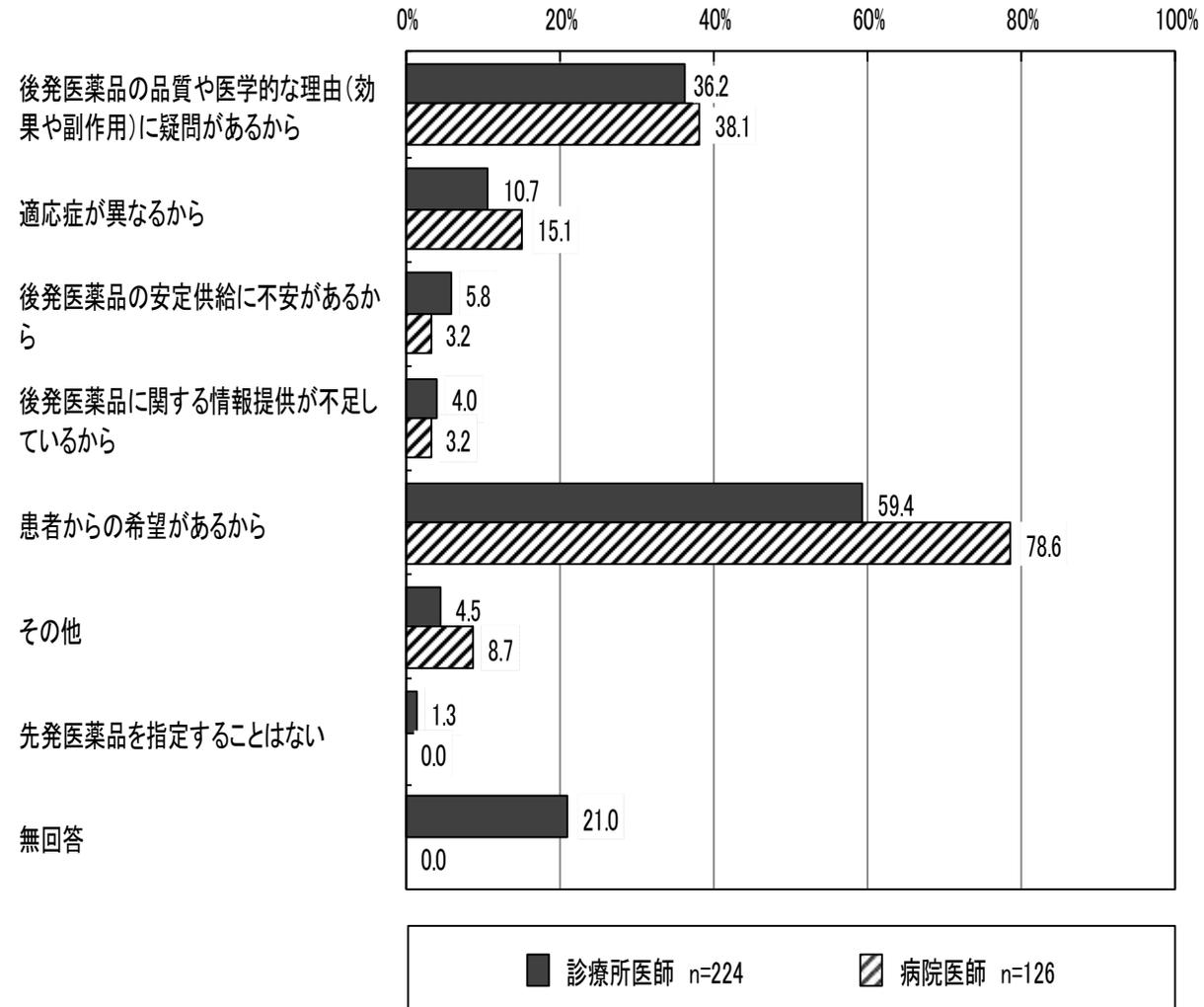


# 施設調査(医療機関)の結果⑦

＜先発医薬品の銘柄指定＞（報告書p154）

先発医薬品を指定する場合の理由についてみると、診療所医師、病院医師ともに「患者からの希望があるから」（診療所医師59.4%、病院医師78.6%）が最も多く、次いで「後発医薬品の品質や医学的な理由（効果や副作用）に疑問があるから」（診療所医師36.2%、病院医師38.1%）であった。

図表 195 先発医薬品を指定する場合の理由  
（平成31年4月以降「変更不可」欄にチェックした経験のある医師、医師ベース、複数回答）



注1) 不足している情報の内容のうち主なものは以下のとおり。  
 診療所医師 : 効果、副作用、使用添加物、AG情報以外の情報、原産国、製造場所  
 病院医師 : データのエビデンス、有用性、原末製造国

注2) 「その他」の内容のうち主なものは以下のとおり。  
 診療所医師 : ・品質に問題があるため、懸念されるため  
 ・薬剤誤認によるトラブルを避けるため  
 ・先発品の治療効果が高いため  
 病院医師 : ・後発品でアレルギー・副作用反応があったため  
 ・効果・使用感などに明らかな差が出るため  
 ・患者を混乱させないため

# 施設調査(医療機関)の結果⑧

## ＜後発医薬品の銘柄指定＞(報告書p157)

後発医薬品の銘柄を指定する場合の理由についてみると、診療所医師は、「後発医薬品の中でより信頼できるものを選択して処方すべきと考えているから」が23.7%と最も多く、次いで「後発医薬品の銘柄を指定することはない」が23.2%、「患者から希望があったから」が21.9%であった。

一方、病院医師は「後発医薬品の銘柄を指定することはない」が24.6%と最も多く、次いで「後発医薬品の中でより信頼できるものを選択して処方すべきと考えているから」が23.8%、「患者から希望があったから」が19.0%であった。

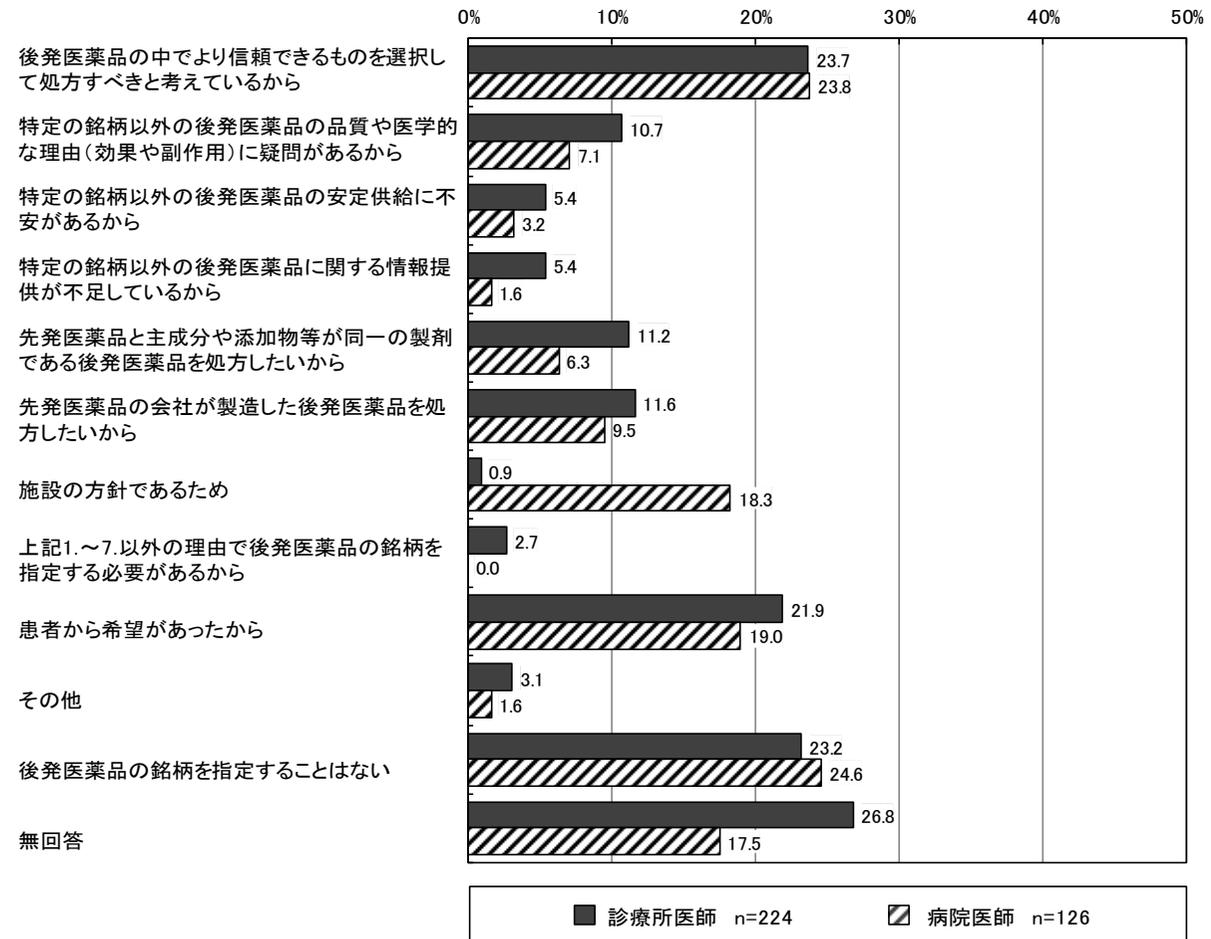
図表 199 後発医薬品の銘柄を指定する場合の理由  
(平成31年4月以降、「変更不可」欄にチェックした経験のある医師、医師ベース、複数回答)

注1) 「上記1.~7.以外の理由で後発医薬品の銘柄を指定する必要があるから」の内容のうち主なものは以下のとおり。

- 診療所医師：  
 ・後発薬のみ温湿布となっているから。  
 ・薬局の在庫の都合。 ・生活保護で仕方なく。  
 ・投与単位が違うものがある。  
 ・防腐剤を含有しないジェネリック点眼剤を指定する必要があるから。  
 ・後発医薬品としては名前が知られており、薬剤誤認のリスクが少ないものがあればその銘柄を指定する。
- 病院医師： 回答は得られなかった。

注2) 「その他」の内容のうち主なものは以下のとおり。

- 診療所医師：  
 ・特に理由はない。 ・主な薬局においてある銘柄を使うため。  
 ・患者の好み ・副作用(アレルギー、皮膚かぶれ)
- 病院医師：  
 ・銘柄というよりは外用の塗り心地など重視して。  
 ・錠剤とカプセルの後発医薬品があるが、小児の患者が錠剤しか飲めない。

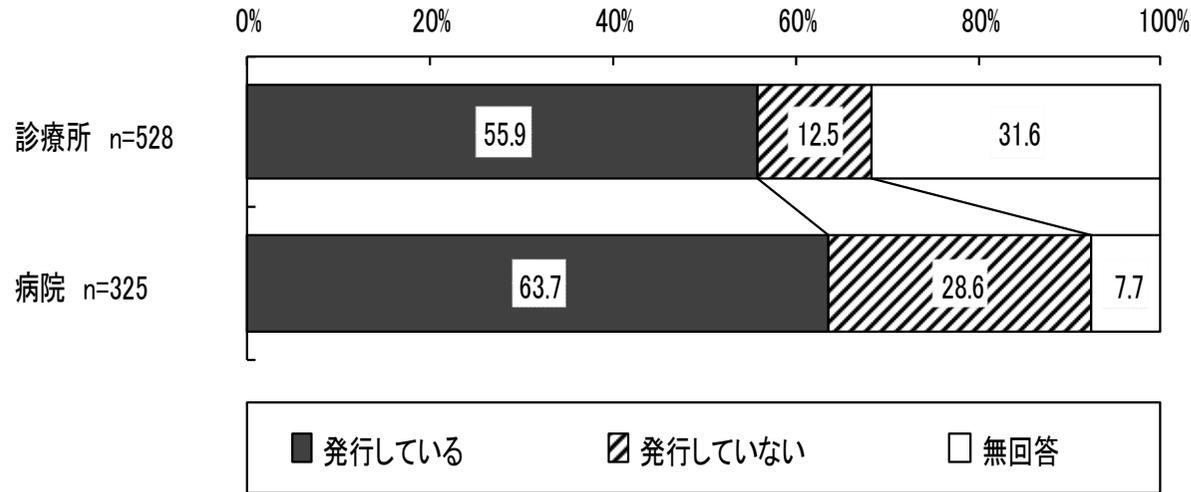


# 施設調査(医療機関)の結果⑨

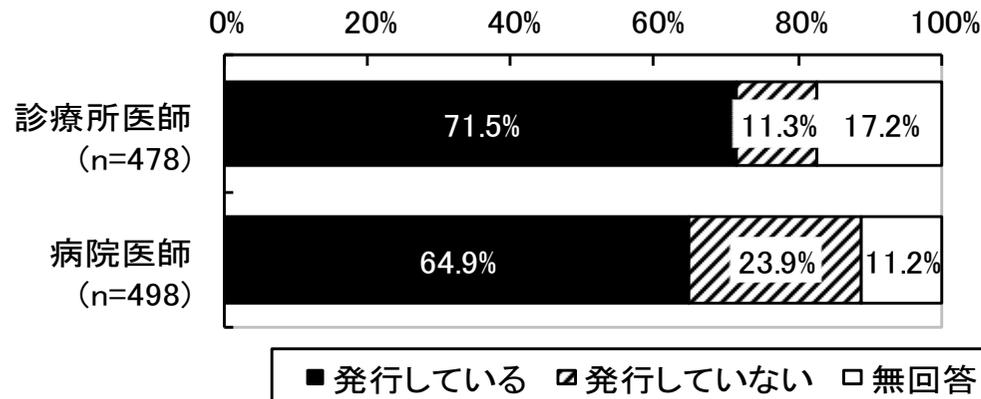
＜一般名処方による処方せん発行の有無＞（報告書p160）

一般名処方による処方箋を発行している医師は、診療所で55.9%、病院で63.7%であった。

図表 203 一般名処方による処方箋発行の有無(医師ベース、単数回答)



(参考)平成30年度調査

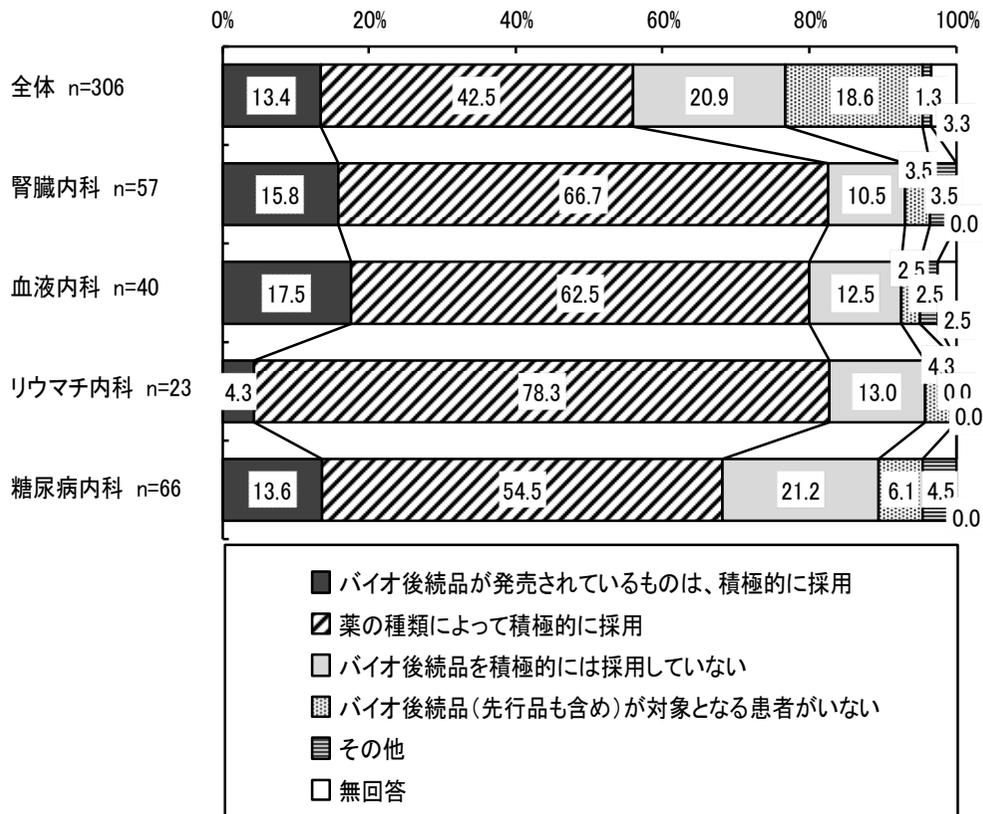


# 施設調査(医療機関)の結果⑩

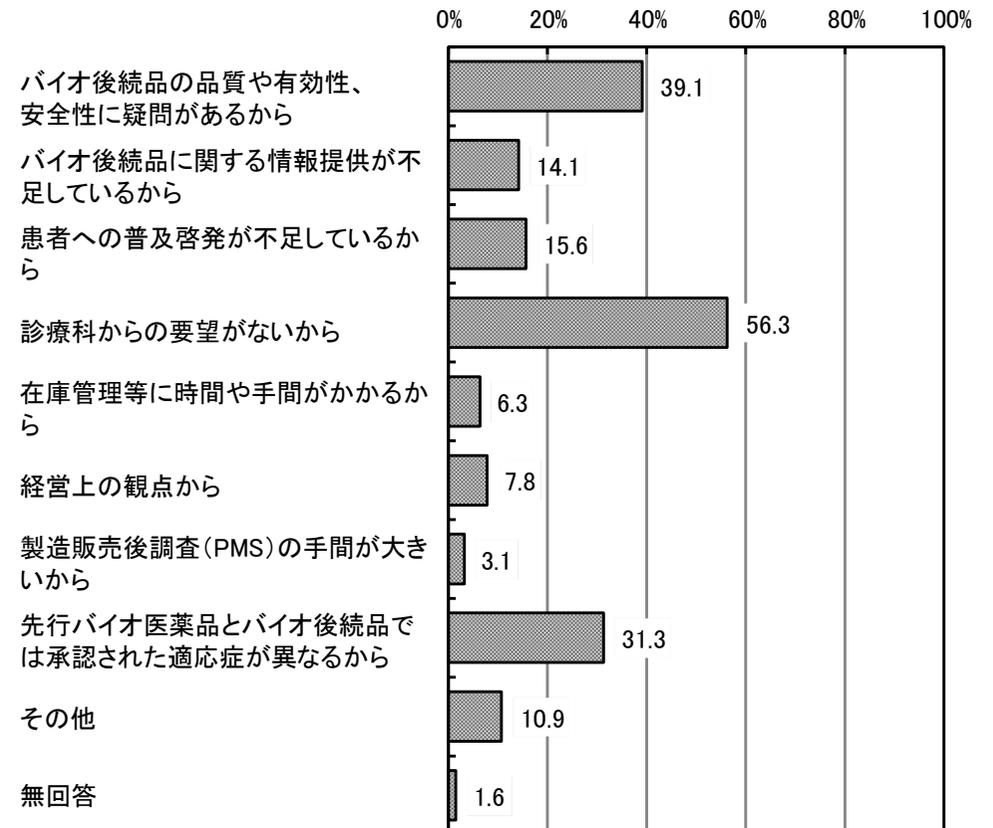
＜病院におけるバイオ後続品の採用に関する考え方＞（報告書p178,183）

病院全体で見ると、「薬の種類によって積極的に採用」が42.5%と最も多く、「バイオ後続品が発売されているものは積極的に採用」と合わせると55.9%であった。バイオ後続品を積極的に採用していない病院における、積極的に採用しない理由としては、「診療科からの要望がないから」が56.3%と最も高かった。

図表 225 バイオ後続品の採用に関する考え方  
(単一回答, n=306)



図表 230 バイオ後続品を積極的に採用していない理由(n=64)



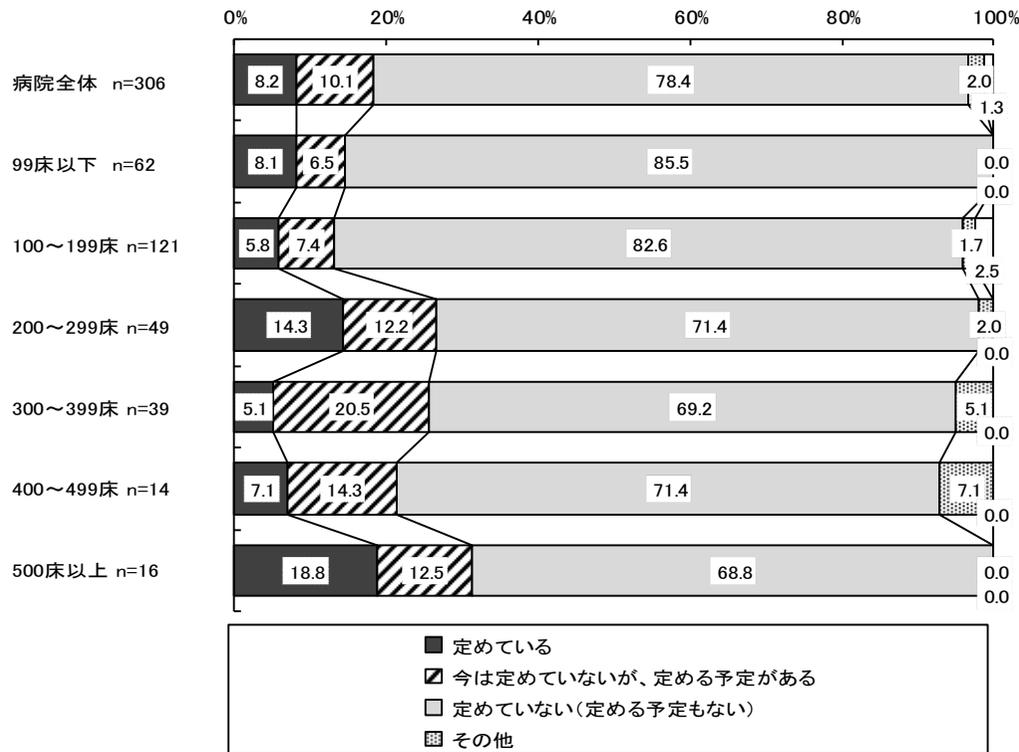
# 施設調査(医療機関)の結果⑪

## ＜病院におけるフォーミュラーの状況＞（報告書p108,109）

病院に対して、いわゆる「フォーミュラー」を定めているか否かを尋ねたところ、「定めている」が8.2%、「今は定めていないが、予定がある」が10.1%、「定めていない」が78.4%であった。病床規模別にみると、500床以上で「定めている」と「今は定めていないが、予定がある」の合計が最も高かった。

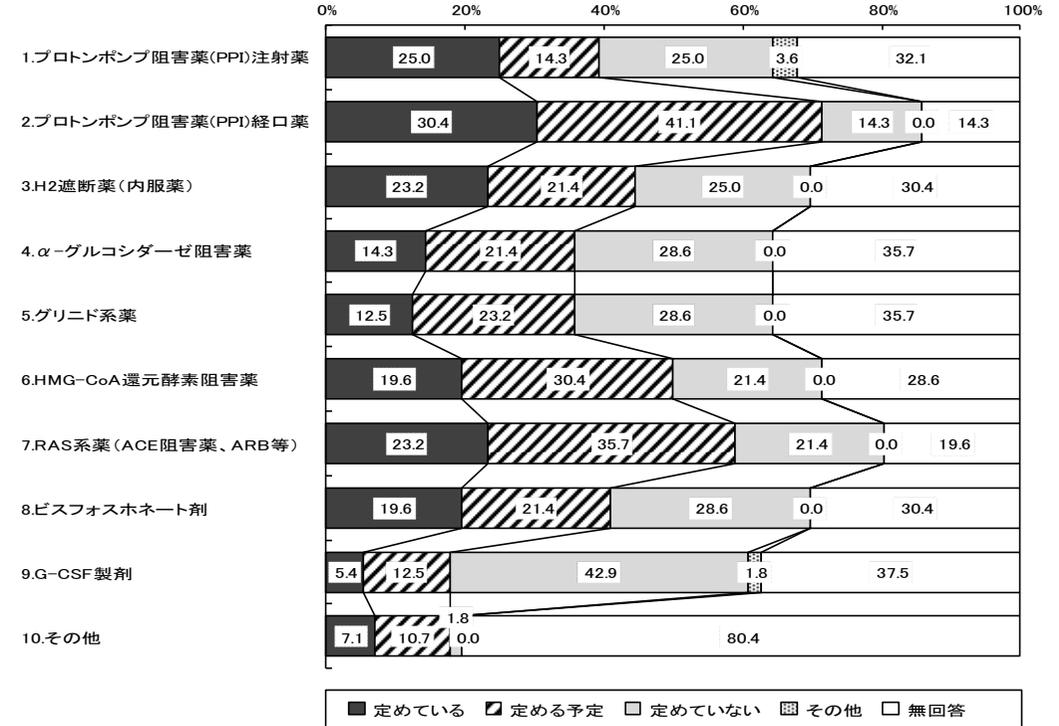
薬剤の種類別にみると、「定めている」と「定める予定」の合計は、プロトンポンプ阻害薬(PPI)経口薬が71.5%と最も多く、プロトンポンプ阻害薬(PPI)注射薬の39.3%と比べて約32ポイント高かった。

図表 140 病院におけるフォーミュラーの作成状況(病床規模別,単数回答)



注) 「その他」の内容のうち、主なものは以下のとおり。  
 ・薬剤構成見直し済み ・採用品≠フォーミュラー品である

図表 141 病院におけるフォーミュラーの作成状況(単数回答;n=56)



注) 「その他」の内容のうち、主なものは以下のとおり。  
 ・抗インフルエンザ薬 ・抗MRSA薬 ・DPP-4阻害薬 ・プロスタグランジン点眼薬  
 ・睡眠薬 ・エリスロポエチン製剤

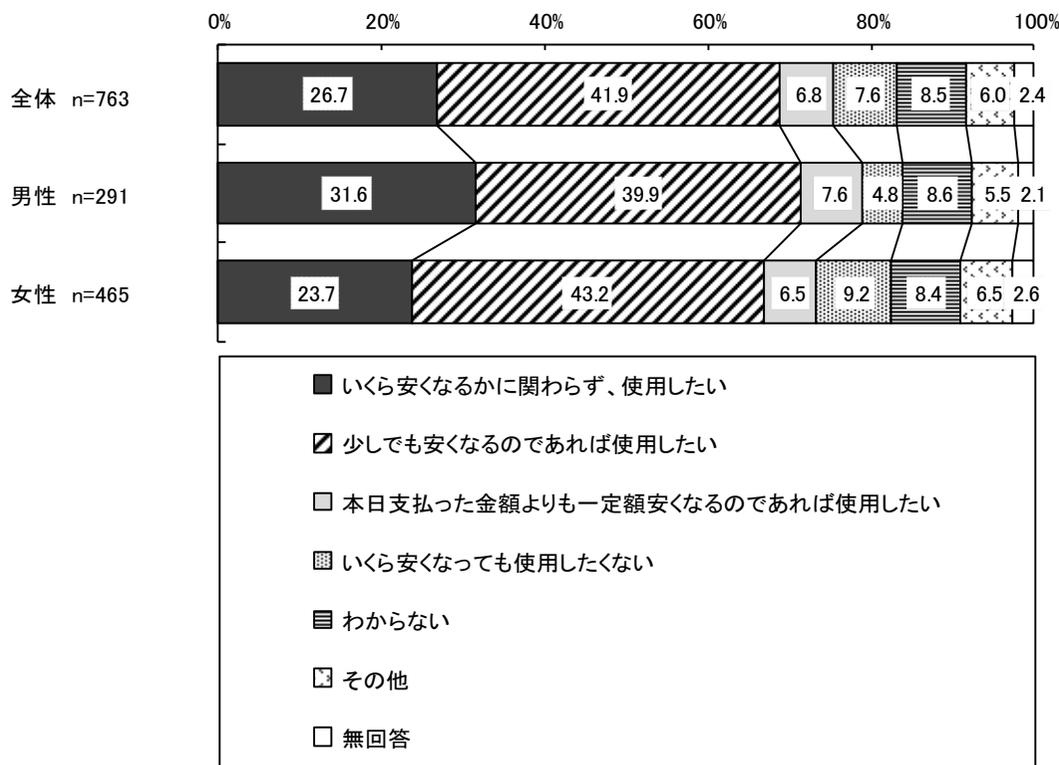
※本調査ではフォーミュラーを「有効性や安全性、費用対効果などを踏まえて作成された採用医薬品リスト等」とした。

# 患者調査の結果①

## ＜ジェネリック医薬品に関する使用意向＞（報告書p209）

医療費の自己負担があった人に対して、ジェネリック医薬品に関する使用意向を尋ねたところ、「少しでも安くなるのであれば使用したい」が41.9%と最も多く、次いで「いくら安くなるかに関わらず、使用したい」が26.7%であった。

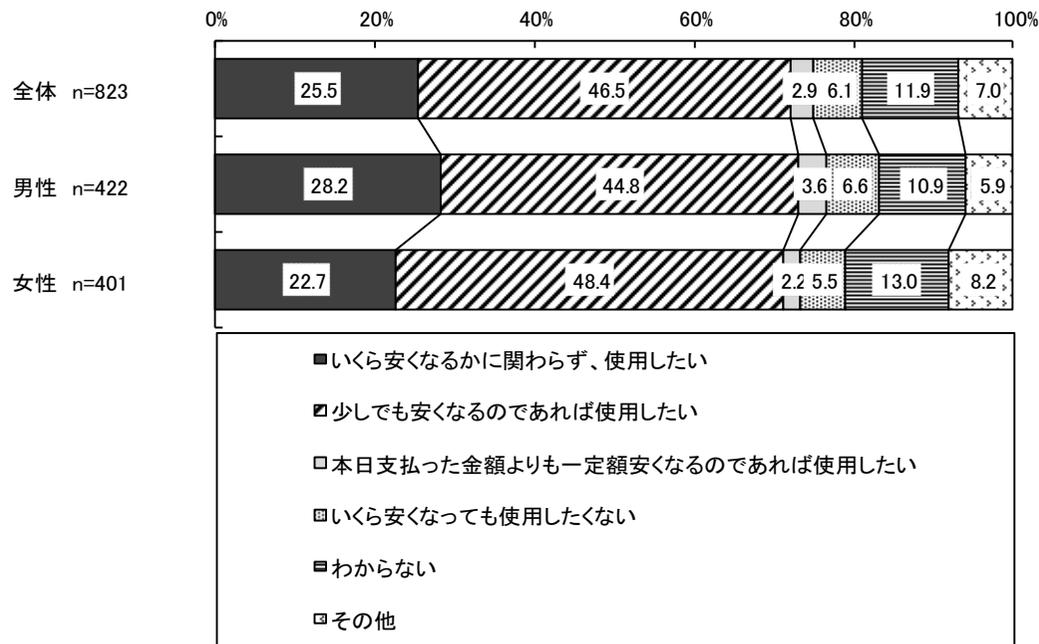
図表265 ジェネリック医薬品に関する使用意向（自己負担との関係）  
（医療費の自己負担があった人、男女別、単数回答）



注)「その他」の内容のうち、主なものは以下の通り。  
 ・すでにジェネリック医薬品を使用している。  
 ・薬によって考える。  
 ・金額ではなく、薬の内容や効果、使用感によってジェネリック医薬品か先発か選びたい。  
 ・どちらでもいい。

### ＜参考＞

（報告書p252）図表321 【同WEB調査】



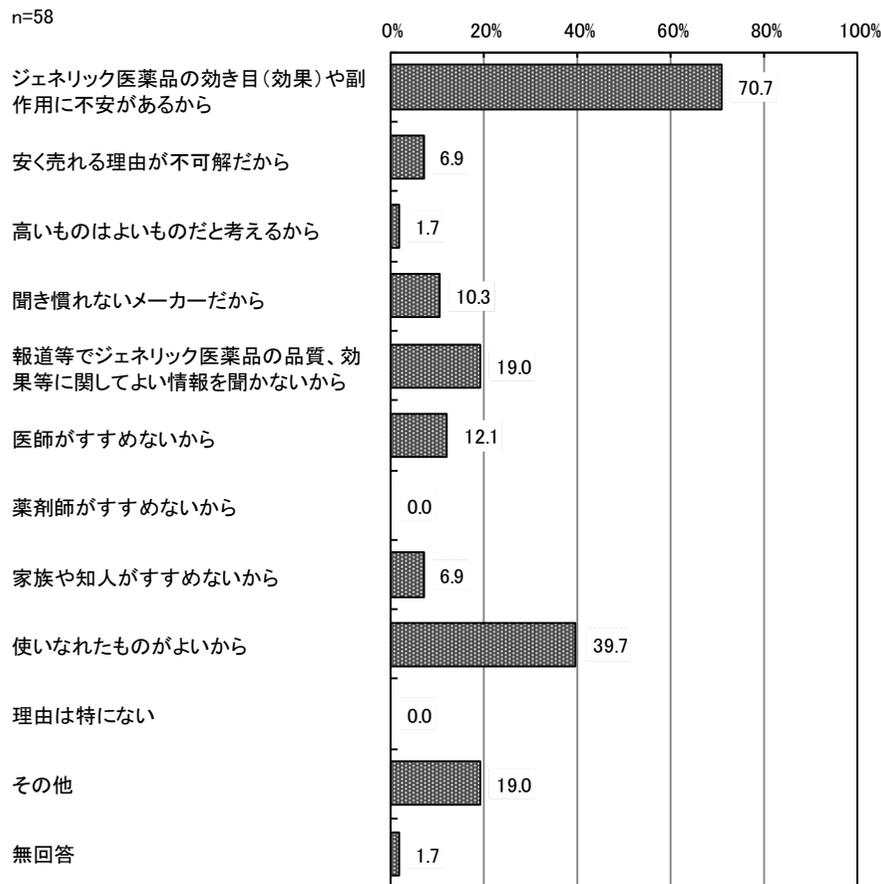
注)「その他」の内容のうち、主なものは以下の通り。  
 ・すでにすべてジェネリック医薬品にしている。  
 ・この薬に関しては易くなっても使いたくない。薬の種類によってはジェネリック医薬品を使いたい。  
 ・高額医療費限度額なのでこれより安くなる事はない。

# 患者調査の結果②

＜いくら安くなっても使用したくない理由＞（報告書p212）

「いくら安くなっても使用したくない」と回答した人に対して、ジェネリック医薬品がいくら安くなっても使用したくない理由を尋ねたところ、「ジェネリック医薬品の効き目（効果）や副作用に不安があるから」が70.7%で最も多く、次いで「使いなれたものがよいから」（39.7%）であった。

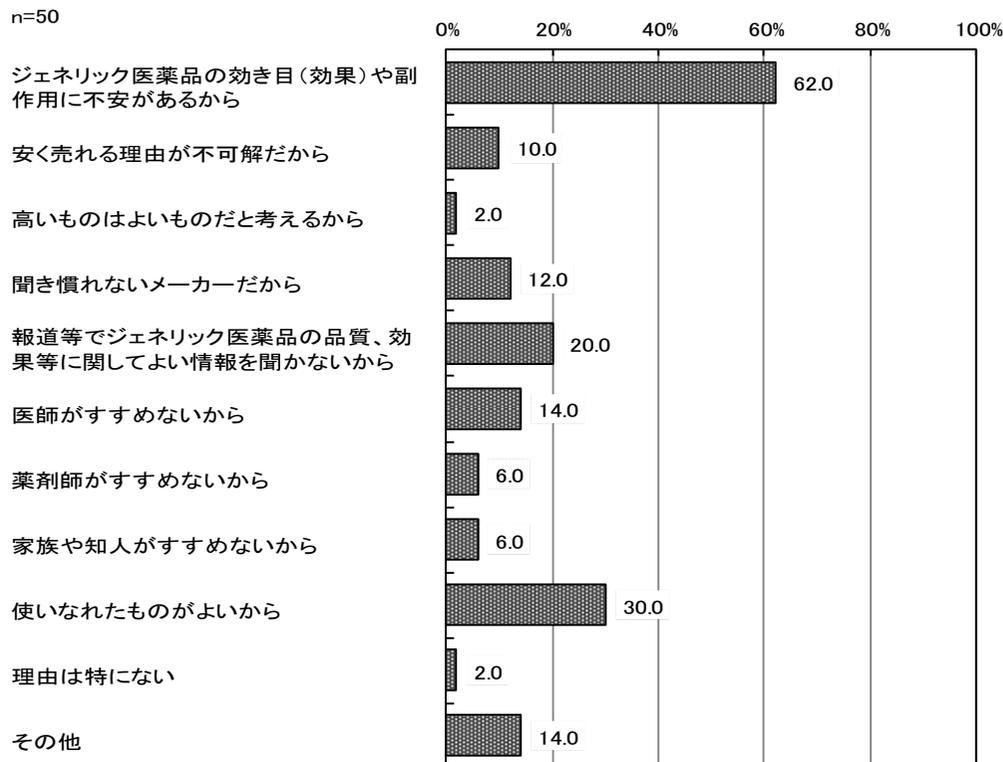
図表269 ジェネリック医薬品がいくら安くなっても使用したくない理由（「いくら安くなっても使用したくない」と回答した人、複数回答）



注)「その他」の内容のうち、主なものは以下の通り。  
 ・ジェネリック使用して合わなかったから。  
 ・ジェネリック品のない特別な薬剤を処方されている。

## ＜参考＞

(報告書p254)図表324 【同WEB調査】



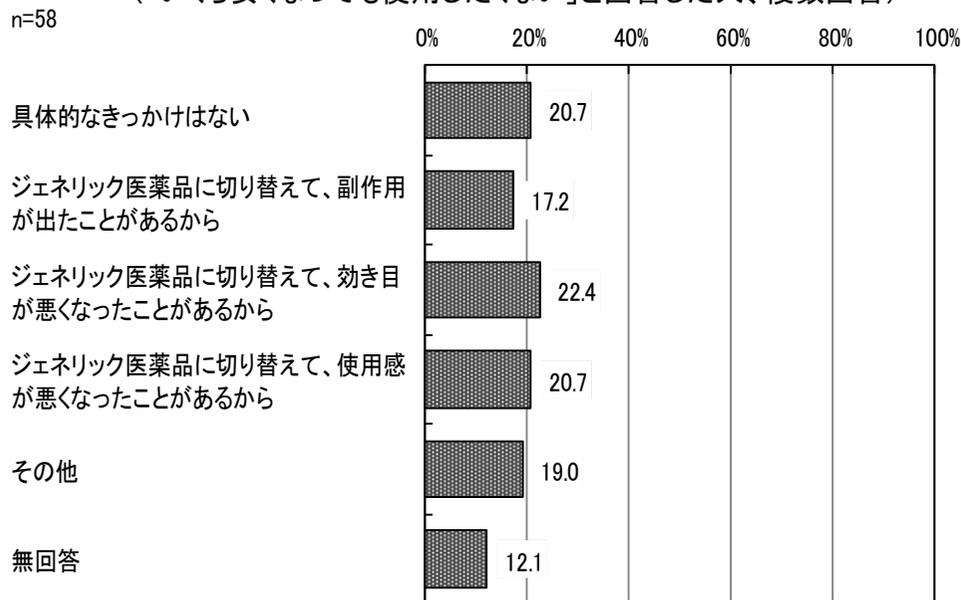
注)「その他」の内容のうち、主なものは以下の通り。  
 ・アレルギーがあるから。  
 ・ジェネリック品の安全性と品質情報が無いから  
 ・先発品との同等性が証明されていない。

# 患者調査の結果③

＜ジェネリック医薬品を使用したくないと思った具体的なきっかけ＞（報告書p213）

ジェネリック医薬品を使用したくないと思った具体的なきっかけを尋ねたところ、「ジェネリック医薬品に切り替えて、効き目が悪くなったことがあるから」が22.4%、次いで「ジェネリック医薬品に切り替えて、使用感が悪くなったことがあるから」、「具体的なきっかけはない」がともに20.7%であった。

図表270 ジェネリック医薬品を使用したくないと思った具体的なきっかけ  
（「いくら安くなっても使用したくない」と回答した人、複数回答）



注1)「ジェネリック医薬品に切り替えて、副作用が出たことがあるから」の具体的な内容として、主に以下のものが挙げられた。

・気持ちわるくなった。胃がむかむかした。・発疹 ・めまい ・赤みが出て治らない ・眠気

注2)「ジェネリック医薬品に切り替えて、副作用が出たことがあるから」の具体的な内容として、主に以下のものが挙げられた。

・数値がわるくなったので。

注3)「ジェネリック医薬品に切り替えて、効き目が悪くなったことがあるから」の具体的な内容として、主に以下のものが挙げられた。

・ロキソニンのジェネリック効かなかったため。・痛み止めの効き目がない。

・シップ(テープ)類が、はがれやすい。

注4)「その他」の内容のうち、主なものは以下の通り。

・現在使用している薬の色と名前とのまざらわしさ。・一度使ってみたが飲み間違いをしてしまったから戻した。

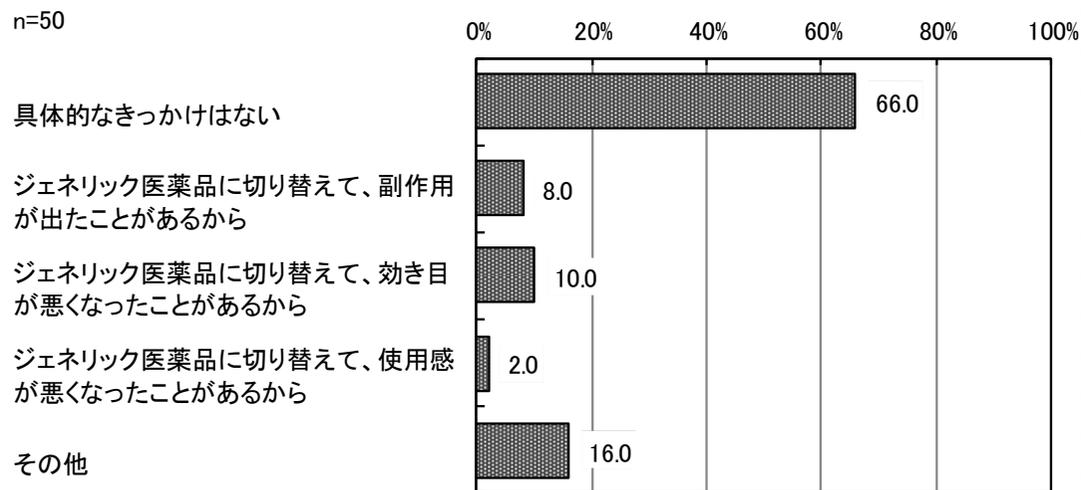
・効き目よりも前と同じ薬の名前とシートの方が間違わないから。

・どの薬もよく効くので副作用も出やすく、変更するのがこわい。

・添加物が違うから、同じ効果が得られない？

## ＜参考＞

(報告書p254) 図表324 【同WEB調査】



注1)「ジェネリック医薬品に切り替えて、副作用が出たことがあるから」の具体的な内容として、主に以下のものが挙げられた。

・歯茎が腫れた ・蕁麻疹を発症 ・めまい ・体調が悪くなった

注2)「ジェネリック医薬品に切り替えて、副作用が出たことがあるから」の具体的な内容として、主に以下のものが挙げられた。

・過剰効果が出た ・数値が上がった

注3)「ジェネリック医薬品に切り替えて、効き目が悪くなったことがあるから」の具体的な内容を挙げた回答はなかった。

注4)「その他」の内容のうち、主なものは以下の通り。

・恥ずかしかった。・ケチと思われる。

・薬局の売り上げ下がるのではないかと思ったから。

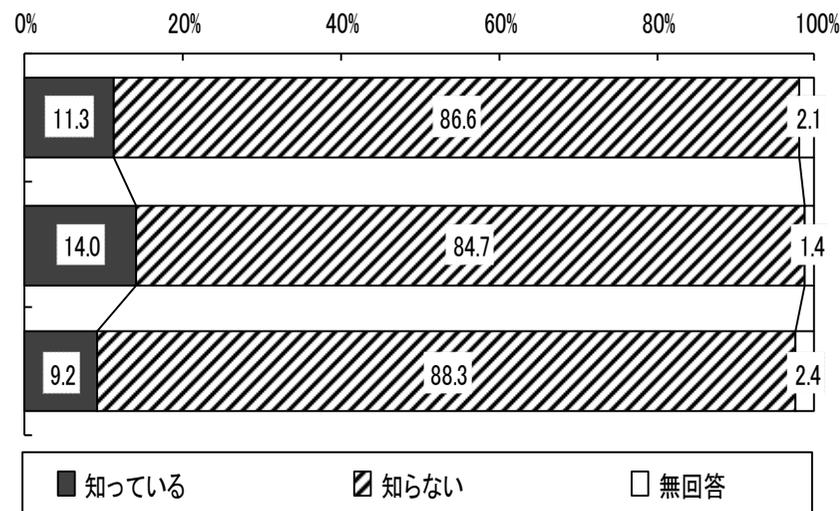
・先生がジェネリックを好まないと聞いていたので。

# 患者調査の結果④

＜「バイオ後続品」または「バイオシミラー」の認知度＞（報告書p242）

「バイオ後続品」または「バイオシミラー」という名称を知っているかどうか尋ねたところ、「知っている」が11.3%、「知らない」が86.6%であった。男女別にみると、男性の方が認知度が高かった。

図表303 「バイオ後続品」または「バイオシミラー」の認知度  
（「バイオ後続品」または「バイオシミラー」の認知度、男女別、単数回答）



＜参考＞

（報告書p280）図表359 【同WEB調査】

